

平成24年度

総合的沿岸域管理の  
教育カリキュラム等に関する調査研究  
報告書  
(付録)

総合的沿岸域管理に関する高校のニーズ調査結果

平成25年3月

海洋政策研究財団  
(財団法人 シップ・アンド・オーシャン財団)



## 総合的沿岸域管理に関する高校のニーズ調査

当財団では、大学等における沿岸域の総合管理に関する学際的教育・研究システム（大学カリキュラム等）の構築を図り、先導的な役割を担う人材の育成を通じて、我が国における沿岸域の総合的管理を普及・促進することを目的として「総合的沿岸域管理の教育カリキュラム等に関する調査研究」事業を実施してきた。一方、高知大学では、四国の他の4国立大学と連携し、総合的な視点を持って海を知り、利用し、そして維持・管理できる人材の育成を目指した学部レベルの新しい海洋・沿岸域に関する教育組織（学科等）の設立を目指し動き始めている。しかし、大学カリキュラムや学科の設置等のシステムを実際に大学教育の場で導入していくためには、高等学校側の海洋や沿岸域に関する新たな教育システムに対するニーズ等を把握し、それに応じた新しい教育組織の設置を検討していくことをデータにもとづいて示していくことが重要である。そこで当財団は、高等学校側の海洋に関する総合的な教育を行なう大学への興味や関心を把握するために、高知大学と協働で下記のアンケート調査を実施した。

### 1. 目的

大学等における沿岸域の総合管理に関する学際的教育・研究システムの構築にあたり、国内の高等学校（進路担当教師・生徒）における海洋や沿岸域に関する新たな教育システムに対するニーズ等を把握し、それに応じた新しい教育組織の設置を検討していく。

### 2. 内容

進路指導担当教師並びに高校生（2年生）に対する海洋や沿岸域に関する新たな教育システムに関するアンケート調査を実施し、その集計と分析を行なった。

### 3. 配布対象

全国の水産高校・海洋高校・普通高校のうち、大学進学希望の高い高校を高知大学と協働で50校選定し、高校生約2,500人、進学担当教員約150人を対象とした。

アンケート調査の結果、高等学校において進路担当教師、生徒共に、海洋・沿岸域に関する総合的な教育システムを肯定的に捉えていることが分かった。新学科について「興味があれば理文問わず勧められる」と回答した進路担当教師が59%を占めた。また、生徒の約半数が、新学科に対する興味を有していることが分かった（「興味がある」が約12%、「少し興味がある」が約37%）。



## 目次

---

1:	アンケート概要	1
1)	実施時期	1
2)	アンケート配布対象校	1
2:	アンケート本体	2
1)	進学担当教諭用	2
2)	生徒用	4
3:	結果	6
1)	進学担当教諭 単純集計	6
(1)	属性：県別・高校種別	6
(2)	属性：担当教科	7
(3)	質問1：進路指導担当状況	8
(4)	質問2：生徒の環境問題に対する興味	9
(5)	質問3：生徒の海での取り組みに対する興味	10
(6)	質問4：海洋・沿岸域活動に対する興味	11
(7)	質問5：海洋の持続的開発にとって重要な知識・能力	13
(8)	質問6：進路選択時に重視させる事柄	14
(9)	質問7：生徒に勧める際に重要視する事柄	15
(10)	質問8：新学科の推薦度	16
(11)	質問9：就職の需要と推薦度	17
(12)	質問10：新学科等を生徒に勧めるために必要な特徴・強み	18
2)	生徒 単純集計	19
(1)	属性：県別・高校種別	19
(2)	属性：学年・性別・希望進路・希望学科・進路検討状況	20
(3)	質問1：海に関する興味	23
(4)	質問2：海での取り組みに対する興味	24
(5)	質問3：海洋・沿岸域活動に対する興味	25
(6)	質問4：「沿岸域管理」のワード認知度	27
(7)	質問5：沿岸域管理に対する興味	28
(8)	質問6：興味のある知識・能力	29
(9)	質問7：興味のある職業	30
(10)	質問8：大学に行きたい理由	32
(11)	質問9：新学科に対する興味	33
3)	進学担当教諭と生徒の比較	34
(1)	海での取り組みに関する興味	34
(2)	海洋・沿岸域活動に対する興味	35
(3)	知識・能力	38



# 1: アンケート概要

## 1) 実施時期

2013年		
1月	2月	3月
1/11	帳票作成	2/14
	2/14	発送作業 2/19
		2/28▲ 返信締切
		3/1
		3/9▲ 最終受付
		入力作業 3/14
		3/15 集計作業 3/27

## 2) アンケート配布対象校

京都府	西舞鶴高等学校	普通	愛媛県	今治北高等学校	普通
	海洋高等学校	海洋・水産		松山南高等学校	普通
	鳥羽高等学校	普通		八幡浜高等学校	普通
大阪府	関西大倉高等学校	普通		宇和島東高等学校	普通
兵庫県	豊岡高等学校	普通		宇和島水産高等学校	海洋・水産
	西宮(市立)高等学校	普通		宇和島南中等教育学校	普通
和歌山県	向陽高等学校	普通	高知県	安芸高等学校	普通
	日高高等学校	普通		高知追手前高等学校	普通
	田辺高等学校	普通		高知小津高等学校	普通
鳥取県	鳥取東高等学校	普通		高知西高等学校	普通
	倉吉東高等学校	普通		中村高等学校	普通
島根県	浜田高等学校	普通		高知海洋高等学校	海洋・水産
	浜田水産高等学校	海洋・水産		土佐高等学校	普通
	益田高等学校	普通		高知高等学校	普通
	隠岐水産高等学校	海洋・水産		高知学芸高等学校	普通
岡山県	岡山芳泉高等学校	普通		土佐塾高等学校	普通
	倉敷天城高等学校	普通	福岡県	水産高等学校	海洋・水産
	玉島(県立)高等学校	普通	長崎県	長崎鶴洋高等学校	海洋・水産
山口県	大津緑洋高等学校	海洋・水産		五島高等学校	普通
徳島県	城南高等学校	普通	大分県	大分舞鶴高等学校	普通
	城北高等学校	普通		海洋科学高等学校	海洋・水産
	富岡東高等学校	普通	宮崎県	宮崎西高等学校	普通
	富岡西高等学校	普通		宮崎海洋高等学校	海洋・水産
	城ノ内高等学校	普通	鹿児島県	鹿児島水産高等学校	海洋・水産
				鹿屋高等学校	普通
			沖縄県	球陽高等学校	普通

アンケートは高等学校 50 校に配布した。うち海洋・水産系の学科を持つ高等学校を「海洋・水産」と表記している。またそれ以外を「普通」と表記している。

## 2: アンケート本体

### 1) 進学担当教諭用

進学担当教諭用  
(1/2)

#### 【海洋に関する新教育組織に関するアンケート】

現在、高知大学では海洋に関する新しい教育組織（学科等）の設置を検討しています。  
本アンケートはその参考にさせていただきますのでご協力をお願いします。

高等学校名  学校所在地  都道府県  市町村  担当教科

■質問 1: 進路指導を担当されていますか？

1. 現在担当している。 2. 以前は担当していたが現在は担当していない。 3. 担当したことはない。

■質問 2: 近年、世界各国で、地球温暖化をはじめとした環境問題に対応するために様々な取り組みが行われていますが、生徒のみなさんはこのような「環境問題」に興味を持っている様子ですか？当てはまるものを 1つ選んで その番号に○をつけてください。

1. 環境問題に興味を持っている生徒は多い。 2. どちらかと言えば多い。  
3. どちらとも言えない・わからない。 4. どちらかと言えば少ない。 5. 少ない。

■質問 3: 海はこれまでも私たちの生活や経済にとって重要な役割を果たしてきました。近年ではさらに、洋上風力発電、海洋資源の開発・利用、海や沿岸の自然環境の保全やエコツアー、地球温暖化などへの取り組みに対して人々の関心が高まっています。生徒のみなさんはこのような取り組みについて興味を持っている様子ですか？当てはまるものを 1つ選び その番号に○をつけてください。

1. 取り組みに興味を持っている生徒は多い。 2. どちらかと言えば多い。  
3. どちらとも言えない・わからない。 4. どちらかと言えば少ない。 5. 少ない。

■質問 4: 以下の中から、あなたが興味がある取り組みを 全て選んで その番号に○をつけてください（海洋・沿岸域活動イメージ図参照）。

- |                                      |                         |
|--------------------------------------|-------------------------|
| 1. 漁業・養殖                             | 2. 海上輸送                 |
| 3. 洋上風力発電の開発                         | 4. 海洋エネルギー・資源の開発        |
| 5. 魚釣り・潮干狩り・ダイビング・サーフィン・ヨットなどの海洋レジャー |                         |
| 6. ビーチクリーンアップ                        | 7. サンゴ礁・アマモ場・砂浜などの保全と再生 |
| 8. 造船・海洋プラント                         | 9. 海を活かしたまちづくり          |
| 10. 海・土地の利用に関する計画づくり                 |                         |
| 11. 海の生物や水質などの環境調査・研究                |                         |
| 12. 海底地震・津波の研究                       | 13. エコツアー・環境教育          |
| 14. 津波・高潮などに対する防災対策                  | 15. 防災教育                |

■質問 5: 質問 4 のような、海をまもりながら開発を行うための取り組みにおいて、どの様な知識・能力が重要だと思いますか？以下のうち重要だと思うものを すべて選んで その番号に○をつけてください。

1. 海と陸の環境の相互のつながりを一体的にとらえる能力。
2. 自然科学と社会科学の両方にまたがる幅広い知識。
3. 人々の協力を得るための交渉能力。
4. 立場や意見の異なった人々をまとめる能力。
5. 地域の自然や文化を大切にする能力。
6. 相手に分かりやすく説明する能力。
7. 新しいプロジェクトを考え、形にできる能力。
8. 仕事の進行状況を適切に把握し、管理する能力。



■質問6： 進路を選択する際に、生徒に重視するよう指導している事柄を全て選びその番号に○をつけてください。

1. 自身の素質に合いそうか
2. 様々な職種でも役立つ汎用性の高い技術や能力が取得できるか
3. 就職に役立つ資格等が取得できるか
4. 幅広い教養が身に付けられるか
5. 専門的な知識や技術が取得できるか
6. 様々な分野の知見を生かして問題の解決に総合的に取り組む能力が取得できるか

■質問7： 生徒にある進路を勧めるにあたって、あなたがその進路の内容で重要視するのはどのようなことですか？当てはまるものを全て選びその番号に○をつけてください。

1. 大学の知名度
2. 学べる知識や技術
3. 取得できる資格
4. 生徒との相性
5. 教授陣の研究内容
6. 就職の実績や支援体制

■質問8： 四国の国立5大学の連携により設置を検討している新学科等では、海をまもりながら開発を行うための取り組みに必要な、質問5にあるような様々な知識や技能、能力を取得できるようなカリキュラムを検討しています。このような知識や技能、能力は、海洋に限らず様々な職業において役立つものですが、そのような視点から生徒にこの新学科を勧めたいと考えますか？あなたの考えに一番近いものを1つ選んでその番号に○をつけてください。

1. そのような知識や能力は様々な職業で役立つものであり、具体的な就職のビジョンがない生徒にも理文問わず勧めることができる。
2. 環境保全と経済活動の両立等、社会問題の解決に貢献するような職業への興味がある生徒ならば、理文問わず勧めることができる。
3. 理系で環境に関わる職業を考えている生徒になれば勧めやすい。
4. 理系で自然科学系に興味がある生徒になれば勧めやすい。
5. 未設置の学科は勧めにくい。

■質問9： 現在はそれほど知名度がない潜在的な産業・市場に関する学科であっても、近い将来に就職の需要が見込める業界ならば、生徒に進めたいと考えますか？当てはまるものを1つ選んでその番号に○をつけてください。

1. 勧めたい。
2. 勧めたいと少し思う。
3. 勧めたいとは思わない。
4. わからない。

■質問10： 四国の国立5大学の連携により設置を検討している新学科等において、どのような特徴や強みがあれば、生徒に勧めたいと考えますか？当てはまるものを全て選んでその番号に○をつけてください。

1. 実際の環境問題に対して解決策を導く等の経験ができる。
2. 就職後にすぐ活かせるような実地経験ができる。
3. 地域と連携した取り組みや、非営利団体などでの活動を体験できる。
4. 環境保全や災害復興に関するボランティアの経験ができる。
5. 海事関連以外へも就職口がある。
6. 研究分野の将来性があり、学部だけではなくより深い研究ができる。
7. 海外での活躍が期待できる。
8. 多様な考え方を理解し意見をまとめる交渉能力や合意形成能力を得られる。
9. 新しい事業やプロジェクトを立案し創造する経験ができる。
10. 社会の仕組みを理解し、社会に貢献できるような体験ができる。

以上、ご協力ありがとうございました。

## 2) 生徒用

生徒用 (1/2)

### 【海洋に関する新教育組織に関するアンケート】

現在、高知大学では海洋に関する新しい教育組織（学科等）の設置を検討しています。  
本アンケートはその参考にさせていただきますのでご協力をお願いします。

高等学校名			学年	年生	性別	男・女
学校所在地	都道府県	市町村	希望進路	国公立大学・私立大学		
希望学科	理系学科・文系学科		希望進路検討状況	既に確定・現在検討中		

■質問 1： あなたは、海の生物や資源、海辺の暮らしや仕事など、「海」に関係することに興味がありますか？当てはまる選択肢を 1つ選んで その番号に○をつけてください。

1. 興味がある。 2. 少し興味がある。 3. 興味がない。 4. 分からない。

■質問 2： 海はこれまでも私たちの生活や経済にとって重要な役割を果たしてきました。近年ではさらに、洋上風力発電、海洋資源の開発・利用、海や沿岸の自然環境の保全やエコツアー、地球温暖化などへの取り組みに対して人々の関心が高まっています。あなたはこのような取り組みに興味がありますか？当てはまる選択肢を 1つ選んで その番号に○をつけてください。

1. 興味がある。 2. 少し興味がある。 3. 興味がない。 4. 分からない。

■質問 3： 以下の中から、あなたが興味がある、もしくはやってみたいと思う取り組みを 全て選んで その番号に○をつけてください（海洋・沿岸域活動イメージ図参照）。

- |                                      |                         |
|--------------------------------------|-------------------------|
| 1. 漁業・養殖                             | 2. 海上輸送                 |
| 3. 洋上風力発電の開発                         | 4. 海洋エネルギー・資源の開発        |
| 5. 魚釣り・潮干狩り・ダイビング・サーフィン・ヨットなどの海洋レジャー |                         |
| 6. ビーチクリーンアップ                        | 7. サンゴ礁・アマモ場・砂浜などの保全と再生 |
| 8. 造船・海洋プラント                         | 9. 海を活かしたまちづくり          |
| 10. 海・土地の利用に関する計画づくり                 |                         |
| 11. 海の生物や水質などの環境調査・研究                |                         |
| 12. 海底地震・津波の研究                       | 13. エコツアー・環境教育          |
| 14. 津波・高潮などに対する防災対策                  | 15. 防災教育                |

■質問 4： 「沿岸域管理」という言葉を知っていましたか？  
当てはまる選択肢を 1つ選んで その番号に○をつけてください。

1. 知っていた。 2. 知らなかった。

■質問 5： 海や沿岸の環境を守りながら開発・利用を進め、これからもずっと海や沿岸の恩恵を得ていくために必要なことを「沿岸域管理」と呼びますが、このような分野に興味がありますか？当てはまる選択肢を 1つ選んで その番号に○をつけてください。

1. 興味がある。 2. 少し興味がある。 3. 興味がない。 4. わからない。

- 質問 6 : 「沿岸域管理」には以下のような知識・能力が必要だと考えられていますが、これは他の職種においても重要な知識・能力です。この中に、興味がある、または身につけたいと思うものはありますか？  
当てはまるものをすべて選んでその番号に○をつけてください。

1. 海と陸の環境の相互のつながりを一体的にとらえる能力。
2. 自然科学と社会科学の両方にまたがる幅広い知識。
3. 人々の協力を得るための交渉能力。
4. 立場や意見の異なった人々をまとめる能力。
5. 地域の自然や文化を大切にできる能力。
6. 相手に分かりやすく説明する能力。
7. 新しいプロジェクトを考え、形にできる能力。
8. 仕事の進行状況を適切に把握し、管理する能力。

- 質問 7 : 以下の様な職業で、質問 6 のような「沿岸域管理」に関する知識や能力を持った人材が求められています。あなたが興味がある、もしくはやってみたいと思う職業はありますか？当てはまる職業を全て選んでその番号に○をつけてください。

1. 漁業・水産業（漁師・漁協職員・水産加工会社など）。
2. エネルギーや資源の開発に関する事業（総合商社・石油会社・電力会社など）。
3. 海事・運輸に関する事業（海運・物流・造船など）。
4. 建設事業（港・防波堤・橋の設計や建設など）。
5. 観光事業（旅行会社・ホテル・ガイド・エコガイドなど）。
6. レジャー事業（マリナー、ヨットクラブ、ダイビング、サーフィンなど）。
7. 環境調査会社（環境影響評価・コンサルタントなど）。
8. 環境保全に関わる組織（NPO・NGO・シンクタンク・財団法人など）。
9. 県や市の職員（地域計画作成、産業振興、環境保全など）。
10. 国家公務員（国土交通省・防衛省・環境省・農林水産省・外務省など）。
11. 国連機関の職員（国連開発計画・世界銀行など）。
12. 国際協力関係の職員（JICA（例：青年海外協力隊）、WWF など）。
13. 大学や研究所の研究者（生物学・地質学・政策学・法学・工学など）。
14. 小中高等学校の教員（社会科・理科・国語など）。

- 質問 8 : あなたが大学に行きたいと思う理由は何ですか？  
当てはまる選択肢を全て選んでその番号に○をつけてください。

1. 将来の仕事に役立つ勉強がしたい。
2. 専門的な研究をしたい。
3. 幅広い教養を身につけたい。
4. 大学の学歴がほしい。
5. 資格や免許を取得したい。
6. すぐに社会に出るのが不安。
7. 自分の将来について考えたい。
8. 周囲の人がみな行く。
9. 学校の先生が勧める。
10. 家族が勧める。

- 質問 9 : 高知大学が四国の国立5大学の連携により設置を検討している海に関する新しい教育組織（学科等）では、質問 6 の選択肢にあるような知識・能力を広く総合的に学ぶことができます。あなたはこの新学科に興味がありますか？  
当てはまる選択肢を1つ選んでその番号に○をつけてください。

1. 興味がある。
2. 少し興味がある。
3. 興味がない。
4. わからない。

以上、ご協力ありがとうございました。

### 3: 結果

#### 1) 進学担当教諭 単純集計

##### (1) 属性：県別・高校種別

高等学校名	<input type="text"/>	学校所在地	都道府県	市町村	担当教科	<input type="text"/>
-------	----------------------	-------	------	-----	------	----------------------

	普通	海洋水産	計
京都府	1	3	4
大阪府	0	0	0
兵庫県	3	0	3
和歌山県	3	0	3
鳥取県	0	0	0
島根県	1	1	2
岡山県	0	0	0
山口県	0	3	3
徳島県	9	0	9
愛媛県	9	0	9
高知県	22	3	25
福岡県	0	0	0
長崎県	3	0	3
大分県	3	0	3
宮崎県	3	0	3
鹿児島県	0	0	0
沖縄県	3	0	3
計	60	10	70

	普通	海洋水産	計
京都府	1	1	2
大阪府	0	0	0
兵庫県	1	0	1
和歌山県	1	0	1
鳥取県	0	0	0
島根県	1	1	2
岡山県	0	0	0
山口県	0	1	1
徳島県	4	0	4
愛媛県	3	0	3
高知県	8	1	9
福岡県	0	0	0
長崎県	1	0	1
大分県	1	0	1
宮崎県	1	0	1
鹿児島県	0	0	0
沖縄県	1	0	1
計	23	4	27
配布数	39	11	50
回答率	59	36	54

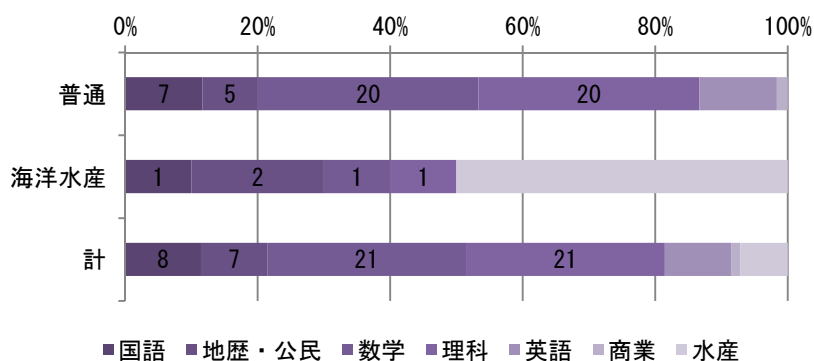
高等学校 27 校、進学担当教諭 70 人から回答をいただいた。県別では高知県が最も多く 9 校 25 人であった。海洋・水産が 4 校（回答率 36%）10 人、普通が 23 校（回答率 59%）60 人であった。

(2) 属性：担当教科

高等学校名  学校所在地  都道府県  市町村  担当教科

担当教科	回答数(人)[回答率%]		
	普通	海洋水産	計
国語	7 [ 11.7 ]	1 [ 10.0 ]	8 [ 11.4 ]
地歴・公民	5 [ 8.3 ]	2 [ 20.0 ]	7 [ 10.0 ]
地歴	2 [ 3.3 ]	0 [ 0.0 ]	2 [ 2.9 ]
地歴・公民	3 [ 5.0 ]	1 [ 10.0 ]	4 [ 5.7 ]
社会（地理）	0 [ 0.0 ]	1 [ 10.0 ]	1 [ 1.4 ]
数学	20 [ 33.3 ]	1 [ 10.0 ]	21 [ 30.0 ]
理科	20 [ 33.3 ]	1 [ 10.0 ]	21 [ 30.0 ]
理科	18 [ 30.0 ]	1 [ 10.0 ]	19 [ 27.1 ]
理科（生物）	1 [ 1.7 ]	0 [ 0.0 ]	1 [ 1.4 ]
生物	1 [ 1.7 ]	0 [ 0.0 ]	1 [ 1.4 ]
英語	7 [ 11.7 ]	0 [ 0.0 ]	7 [ 10.0 ]
商業	1 [ 1.7 ]	0 [ 0.0 ]	1 [ 1.4 ]
水産	0 [ 0.0 ]	5 [ 50.0 ]	5 [ 7.1 ]
合計	60 [ 100.0 ]	10 [ 100.0 ]	70 [ 100.0 ]

担当教科（校種別）[n=70人]



数学と理科が21人(約30%)と最も多かった。商業が1人(約1%)と最も少なかった。

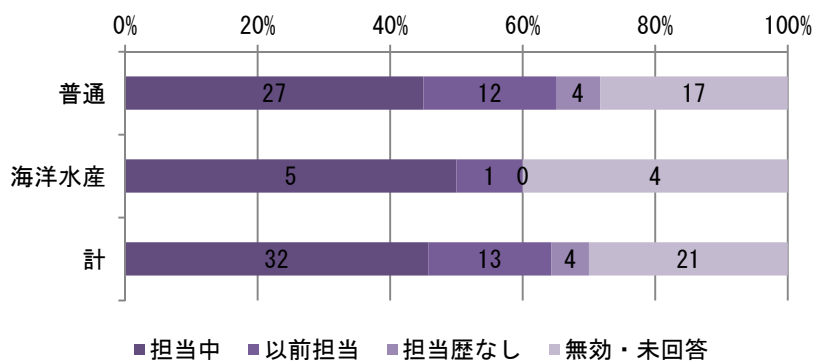
### (3) 質問 1：進路指導担当歴

■質問 1： 進路指導を担当されていますか？

1. 現在担当している。 2. 以前は担当していたが現在は担当していない。 3. 担当したことはない。

進路指導 担当歴	回答数(人)[回答率%]		
	普通	海洋水産	計
担当中	27 [ 45.0 ]	5 [ 50.0 ]	32 [ 45.7 ]
以前担当	12 [ 20.0 ]	1 [ 10.0 ]	13 [ 18.6 ]
担当歴なし	4 [ 6.7 ]	0 [ 0.0 ]	4 [ 5.7 ]
無効・未回答	17 [ 28.3 ]	4 [ 40.0 ]	21 [ 30.0 ]
合計	60 [ 100.0 ]	10 [ 100.0 ]	70 [ 100.0 ]

進路指導担当歴（校種別）[n=70人]



担当中が 32 人(約 46%)と最も多く、担当歴なしは 4 人(約 6%)と最も少なかった。

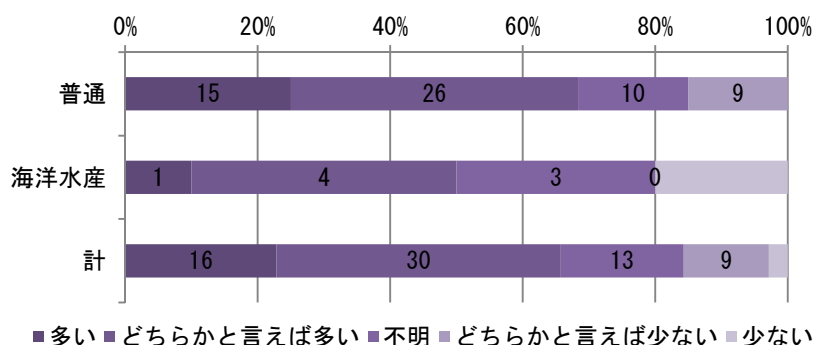
#### (4) 質問 2：生徒の環境問題に対する興味

■質問 2： 近年、世界各国で、地球温暖化をはじめとした環境問題に対応するために様々な取り組みが行われていますが、生徒のみなさんはこのような「環境問題」に興味を持っている様子ですか？当てはまるものを 1つ選んで その番号に○をつけてください。

1. 環境問題に興味を持っている生徒は多い。 2. どちらかと言えば多い。  
3. どちらとも言えない・わからない。 4. どちらかと言えば少ない。 5. 少ない。

環境問題に興味を持つ生徒	回答数(人) [回答率%]		
	普通	海洋水産	計
多い	15 [ 25.0 ]	1 [ 10.0 ]	16 [ 22.9 ]
どちらかと言えば多い	26 [ 43.3 ]	4 [ 40.0 ]	30 [ 42.9 ]
不明	10 [ 16.7 ]	3 [ 30.0 ]	13 [ 18.6 ]
どちらかと言えば少ない	9 [ 15.0 ]	0 [ 0.0 ]	9 [ 12.9 ]
少ない	0 [ 0.0 ]	2 [ 20.0 ]	2 [ 2.9 ]
合計	60 [ 100.0 ]	10 [ 100.0 ]	70 [ 100.0 ]

環境問題に興味を持つ生徒（校種別）[n=70人]



「環境問題に興味を持っている生徒は多い」もしくは「どちらかと言えば多い」と回答した教員は計 46 人（約 65%）に達し、「少ない」と「どちらかと言えば少ない」の合計 11 人（約 15%）よりも多かった。

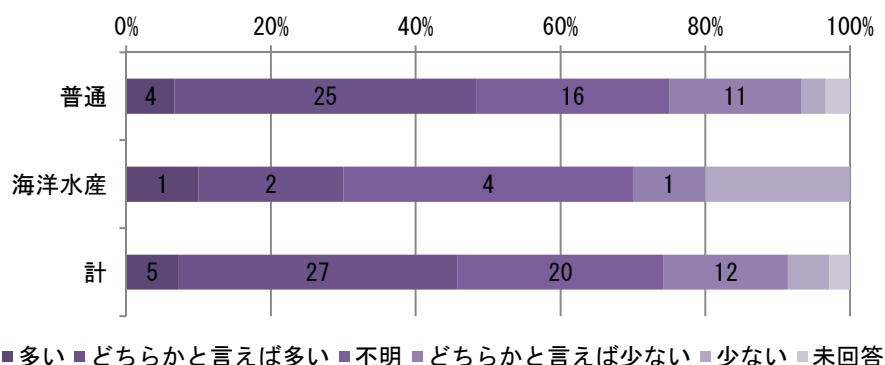
(5) 問3：生徒の海での取り組みに対する興味

■質問3： 海はこれまでも私たちの生活や経済にとって重要な役割を果たしてきました。近年ではさらに、洋上風力発電、海洋資源の開発・利用、海や沿岸の自然環境の保全やエコツアー、地球温暖化などへの取り組みに対して人々の関心が高まっています。生徒のみなさんはこのような取り組みについて興味を持っている様子ですか？当てはまるものを1つ選びその番号に○をつけてください。

1. 取り組みに興味を持っている生徒は多い。 2. どちらかと言えば多い。  
3. どちらとも言えない・わからない。 4. どちらかと言えば少ない。 5. 少ない。

海での取り組みに興味を持つ生徒	回答数(人) [回答率%]		
	普通	海洋水産	計
多い	4 [ 6.7 ]	1 [ 10.0 ]	5 [ 7.1 ]
どちらかと言えば多い	25 [ 41.7 ]	2 [ 20.0 ]	27 [ 38.6 ]
不明	16 [ 26.7 ]	4 [ 40.0 ]	20 [ 28.6 ]
どちらかと言えば少ない	11 [ 18.3 ]	1 [ 10.0 ]	12 [ 17.1 ]
少ない	2 [ 3.3 ]	2 [ 20.0 ]	4 [ 5.7 ]
未回答	2 [ 3.3 ]	0 [ 0.0 ]	2 [ 2.9 ]
合計	60 [ 100.0 ]	10 [ 100.0 ]	70 [ 100.0 ]

海での取り組みに興味を持つ生徒（校種別）[n=70人]



「取り組みに興味を持っている生徒は多い」もしくは「どちらかと言えば多い」と回答した教員は計32人(約46%)で、「少ない」と「どちらかと言えば少ない」の合計16人(約23%)よりも多かった。

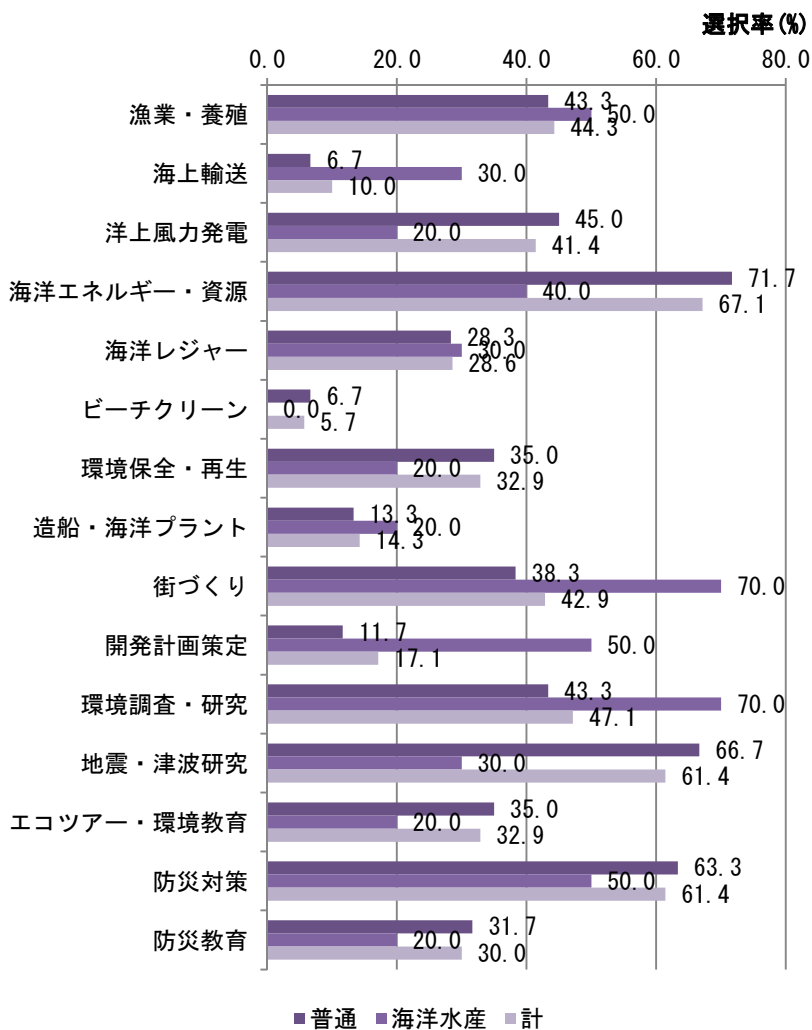


(6) 質問 4：海洋・沿岸域活動に対する興味

■質問 4： 以下の中から、あなたが興味がある取り組みを全て選んでその番号に○をつけてください（海洋・沿岸域活動イメージ図参照）。

- |                                      |                         |
|--------------------------------------|-------------------------|
| 1. 漁業・養殖                             | 2. 海上輸送                 |
| 3. 洋上風力発電の開発                         | 4. 海洋エネルギー・資源の開発        |
| 5. 魚釣り・潮干狩り・ダイビング・サーフィン・ヨットなどの海洋レジャー |                         |
| 6. ビーチクリーンアップ                        | 7. サンゴ礁・アマモ場・砂浜などの保全と再生 |
| 8. 造船・海洋プラント                         | 9. 海を活かしたまちづくり          |
| 10. 海・土地の利用に関する計画づくり                 |                         |
| 11. 海の生物や水質などの環境調査・研究                |                         |
| 12. 海底地震・津波の研究                       | 13. エコツアー・環境教育          |
| 14. 津波・高潮などに対する防災対策                  | 15. 防災教育                |

興味のある海洋・沿岸域活動（校種別）[n=70人]



興味のある海洋・沿岸域活動	選択数(人)[選択率%]		
	普通	海洋水産	計
漁業・養殖	26 [ 43.3 ]	5 [ 50.0 ]	31 [ 44.3 ]
海上輸送	4 [ 6.7 ]	3 [ 30.0 ]	7 [ 10.0 ]
洋上風力発電	27 [ 45.0 ]	2 [ 20.0 ]	29 [ 41.4 ]
海洋エネルギー・資源	43 [ 71.7 ]	4 [ 40.0 ]	47 [ 67.1 ]
海洋レジャー	17 [ 28.3 ]	3 [ 30.0 ]	20 [ 28.6 ]
ビーチクリーン	4 [ 6.7 ]	0 [ 0.0 ]	4 [ 5.7 ]
環境保全・再生	21 [ 35.0 ]	2 [ 20.0 ]	23 [ 32.9 ]
造船・海洋プラント	8 [ 13.3 ]	2 [ 20.0 ]	10 [ 14.3 ]
街づくり	23 [ 38.3 ]	7 [ 70.0 ]	30 [ 42.9 ]
開発計画策定	7 [ 11.7 ]	5 [ 50.0 ]	12 [ 17.1 ]
環境調査・研究	26 [ 43.3 ]	7 [ 70.0 ]	33 [ 47.1 ]
地震・津波研究	40 [ 66.7 ]	3 [ 30.0 ]	43 [ 61.4 ]
エコツアー・環境教育	21 [ 35.0 ]	2 [ 20.0 ]	23 [ 32.9 ]
防災対策	38 [ 63.3 ]	5 [ 50.0 ]	43 [ 61.4 ]
防災教育	19 [ 31.7 ]	2 [ 20.0 ]	21 [ 30.0 ]
n	60	10	70

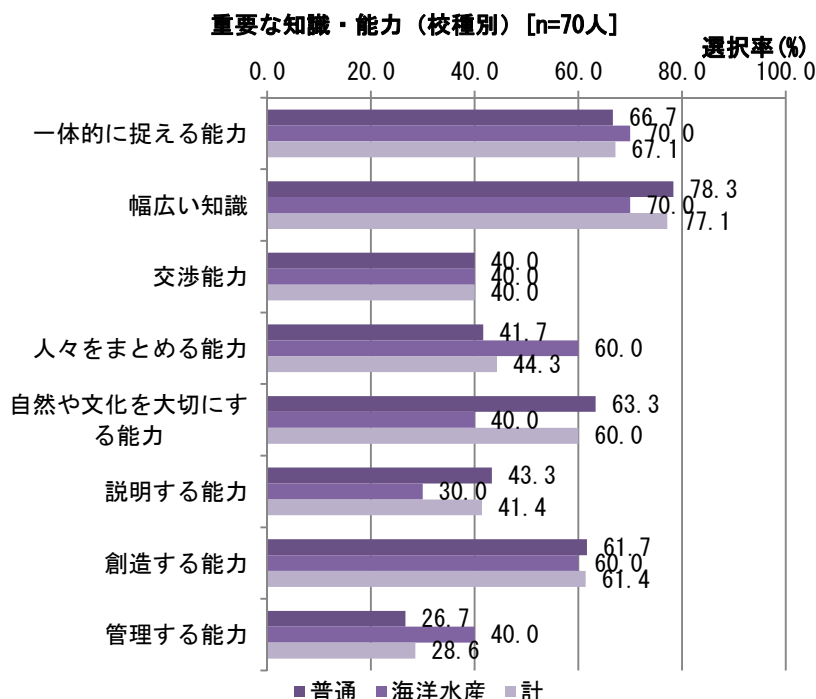
興味がある海洋・沿岸域活動として選択した回答者が最も多かったのは「海洋エネルギー・資源」で47人(約67%)であった。次いで「地震・津波研究」と「防災対策」が同数で43人(約61%)であった。逆に最も少なかったのは「ビーチクリーンアップ」で4人(約6%)であった。

## (7) 質問 5：海洋の持続的開発にとって重要な知識・能力

■質問 5： 質問 4 のような、海をまもりながら開発を行うための取り組みにおいて、どの様な知識・能力が重要だと思いますか？以下のうち重要だと思うものをすべて選んでその番号に○をつけてください。

1. 海と陸の環境の相互のつながりを一体的にとらえる能力。
2. 自然科学と社会科学の両方にまたがる幅広い知識。
3. 人々の協力を得るための交渉能力。
4. 立場や意見の異なった人々をまとめる能力。
5. 地域の自然や文化を大切にする能力。
6. 相手に分かりやすく説明する能力。
7. 新しいプロジェクトを考え、形にできる能力。
8. 仕事の進行状況を適切に把握し、管理する能力。

重要な知識・能力	選択数(人) [選択率%]		
	普通	海洋水産	計
一体的に捉える能力	40 [ 66.7 ]	7 [ 70.0 ]	47 [ 67.1 ]
幅広い知識	47 [ 78.3 ]	7 [ 70.0 ]	54 [ 77.1 ]
交渉能力	24 [ 40.0 ]	4 [ 40.0 ]	28 [ 40.0 ]
人々をまとめる能力	25 [ 41.7 ]	6 [ 60.0 ]	31 [ 44.3 ]
自然や文化を大切にする能力	38 [ 63.3 ]	4 [ 40.0 ]	42 [ 60.0 ]
説明する能力	26 [ 43.3 ]	3 [ 30.0 ]	29 [ 41.4 ]
創造する能力	37 [ 61.7 ]	6 [ 60.0 ]	43 [ 61.4 ]
管理する能力	16 [ 26.7 ]	4 [ 40.0 ]	20 [ 28.6 ]
n	60	10	70



重要な知識・能力として選択した回答者が最も多かったのは「自然科学と社会科学の両方にまたがる幅広い知識」で 54 人(約 77%)であった。「海と陸の環境の相互のつながりを一体的にとらえる能力」「新しいプロジェクトを考え、形にできる能力」「地域の自然や文化を大切にする能力」と続き、どれも 60%を超えていた。最も少なかったのは「仕事の進行状況を適切に把握し、管理する能力」で 20 人(約 29%)であった。

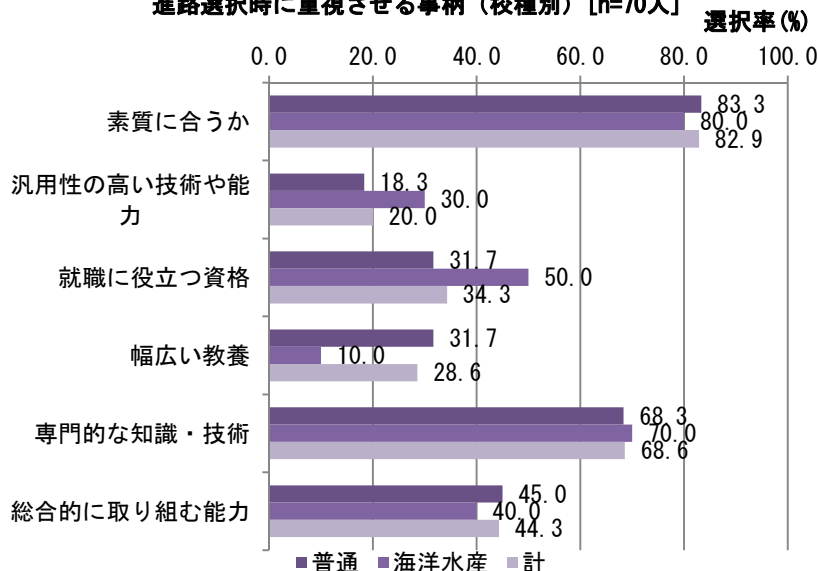
## (8) 質問 6 : 進路選択時に重視させる事柄

■質問 6 : 進路を選択する際に、生徒に重視するよう指導している事柄を全て選びその番号に○をつけてください。

- |   |                                 |
|---|---------------------------------|
| 1. 自身の素質に合いそうか                          | 2. 様々な職種でも役立つ汎用性の高い技術や能力が取得できるか |
| 3. 就職に役立つ資格等が取得できるか                     | 4. 幅広い教養が身に付けられるか               |
| 5. 専門的な知識や技術が取得できるか                     |                                 |
| 6. 様々な分野の知見を生かして問題の解決に総合的に取り組む能力が取得できるか |                                 |

進路選択時に重視させる事柄	選択数(人)[選択率%]		
	普通	海洋水産	計
素質に合うか	50 [ 83.3 ]	8 [ 80.0 ]	58 [ 82.9 ]
汎用性の高い技術や能力	11 [ 18.3 ]	3 [ 30.0 ]	14 [ 20.0 ]
就職に役立つ資格	19 [ 31.7 ]	5 [ 50.0 ]	24 [ 34.3 ]
幅広い教養	19 [ 31.7 ]	1 [ 10.0 ]	20 [ 28.6 ]
専門的な知識・技術	41 [ 68.3 ]	7 [ 70.0 ]	48 [ 68.6 ]
総合的に取り組む能力	27 [ 45.0 ]	4 [ 40.0 ]	31 [ 44.3 ]
n	60	10	70

進路選択時に重視させる事柄 (校種別) [n=70人]



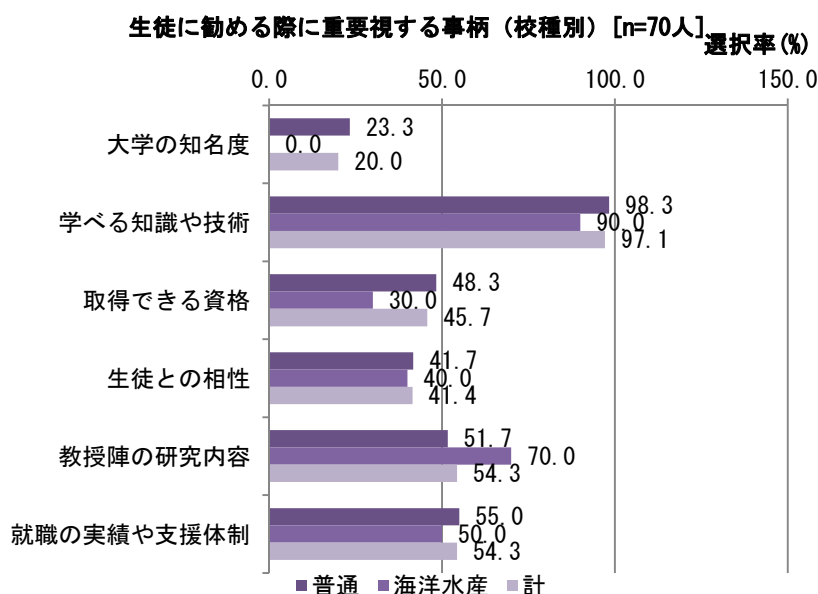
進路選択時に重視させる事柄として選択した回答者が最も多かったのは「自信の資質に合いそうか」で58人(約83%)であった。次いで「専門的な知識や技術が習得できるか」で48人(約69%)であった。逆に最も少なかったのは「様々な職種でも役立つ汎用性の高い技術や能力が取得できるか」で14人(約20%)であった。

### (9) 質問 7：生徒に勧める際に重要視する事柄

■質問 7： 生徒にある進路を勧めるにあたって、あなたがその進路の内容で重要視するのはどのようなことですか？当てはまるものを全て選びその番号に○をつけてください。

- |           |             |               |
|-----------|-------------|---------------|
| 1. 大学の知名度 | 2. 学べる知識や技術 | 3. 取得できる資格    |
| 4. 生徒との相性 | 5. 教授陣の研究内容 | 6. 就職の実績や支援体制 |

生徒に勧める際に重要視する事柄	選択数(人)[選択率%]		
	普通	海洋水産	計
大学の知名度	14 [ 23.3 ]	0 [ 0.0 ]	14 [ 20.0 ]
学べる知識や技術	59 [ 98.3 ]	9 [ 90.0 ]	68 [ 97.1 ]
取得できる資格	29 [ 48.3 ]	3 [ 30.0 ]	32 [ 45.7 ]
生徒との相性	25 [ 41.7 ]	4 [ 40.0 ]	29 [ 41.4 ]
教授陣の研究内容	31 [ 51.7 ]	7 [ 70.0 ]	38 [ 54.3 ]
就職の実績や支援体制	33 [ 55.0 ]	5 [ 50.0 ]	38 [ 54.3 ]
n	60	10	70



生徒に勧める際に重要視する事柄として選択した回答者が最も多かったのは「学べる知識や技術」で68人(約97%)であった。次いで「教授陣の研究内容」と「就職の実績や支援体制」が同数の38人(約54%)であった。逆に最も少なかったのは「大学の知名度」で14人(20%)であった。

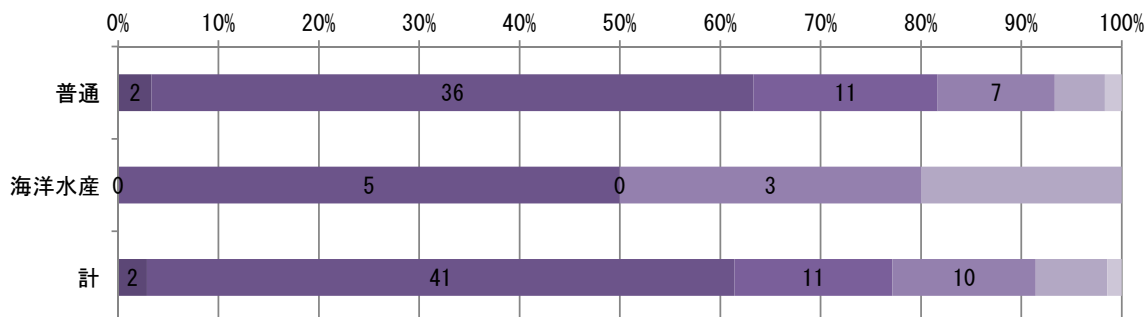
## (10) 質問 8 : 新学科の推薦度

■質問 8 : 四国の国立 5 大学の連携により設置を検討している新学科等では、海をまもりながら開発を行うための取り組みに必要な、質問 5 にあるような様々な知識や技能、能力を取得できるようなカリキュラムを検討しています。このような知識や技能、能力は、海洋に限らず様々な職業において役立つものですが、そのような視点から生徒にこの新学科を勧めたいと考えますか？あなたの考えに一番近いものを1つ選んでその番号に○をつけてください。

1. そのような知識や能力は様々な職業で役立つものであり、具体的な就職のビジョンがない生徒にも理文問わず勧めることができる。
2. 環境保全と経済活動の両立等、社会問題の解決に貢献するような職業への興味がある生徒ならば、理文問わず勧めることができる。
3. 理系で環境に関わる職業を考えている生徒になれば勧めやすい。
4. 理系で自然科学系に興味がある生徒になれば勧めやすい。
5. 未設置の学科は勧めにくい。

新学科の推薦度	回答数(人) [回答率%]		
	普通	海洋水産	計
理文問わず	2 [ 3.3 ]	0 [ 0.0 ]	2 [ 2.9 ]
興味あれば理文問わず	36 [ 60.0 ]	5 [ 50.0 ]	41 [ 58.6 ]
理系で環境に興味あれば	11 [ 18.3 ]	0 [ 0.0 ]	11 [ 15.7 ]
理系で自然科学に興味あれば	7 [ 11.7 ]	3 [ 30.0 ]	10 [ 14.3 ]
勧めにくい	3 [ 5.0 ]	2 [ 20.0 ]	5 [ 7.1 ]
未回答	1 [ 1.7 ]	0 [ 0.0 ]	1 [ 1.4 ]
合計	60 [ 100.0 ]	10 [ 100.0 ]	70 [ 100.0 ]

新学科の推薦度 (校種別) [n=70人]



■理文問わず ■興味あれば理文問わず ■理系で環境に興味あれば ■理系で自然科学に興味あれば ■勧めにくい ■未回答

「興味があれば理文問わず勧めれる」と回答した教員が最も多く 41 人(約 59%)であった。「無条件で理文問わず勧めれる」と回答した教員は 2 人(約 3%)しかいなかった。逆に「勧めにくい」と回答した教員も 5 人(約 7%)と少なかった。

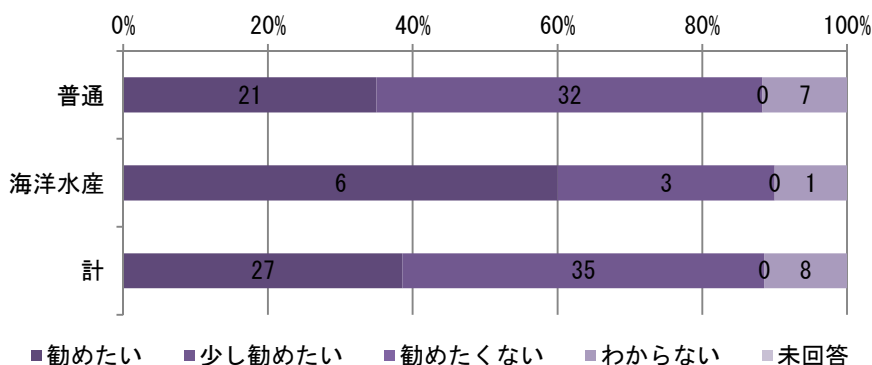
### (11) 質問 9：就職の需要と推薦度

■質問 9： 現在はそのほど知名度がない潜在的な産業・市場に関する学科であっても、近い将来に就職の需要が見込める業界ならば、生徒に進めたいと考えますか？当てはまるものを1つ選んでその番号に○をつけてください。

1. 勧めたい。 2. 勧めたいと少し思う。 3. 勧めたいとは思わない。 4. わからない。

就職の需要と推薦度	回答数(人) [回答率%]		
	普通	海洋水産	計
勧めたい	21 [ 35.0 ]	6 [ 60.0 ]	27 [ 38.6 ]
少し勧めたい	32 [ 53.3 ]	3 [ 30.0 ]	35 [ 50.0 ]
勧めたくない	0 [ 0.0 ]	0 [ 0.0 ]	0 [ 0.0 ]
わからない	7 [ 11.7 ]	1 [ 10.0 ]	8 [ 11.4 ]
未回答	0 [ 0.0 ]	0 [ 0.0 ]	0 [ 0.0 ]
合計	60 [ 100.0 ]	10 [ 100.0 ]	70 [ 100.0 ]

就職の需要と推薦度（校種別） [n=70人]



「勧めたいと少し思う」と回答した教員が最も多く 35 人(50%)であった。「勧めたくない」と回答した教員は 0 人であった。

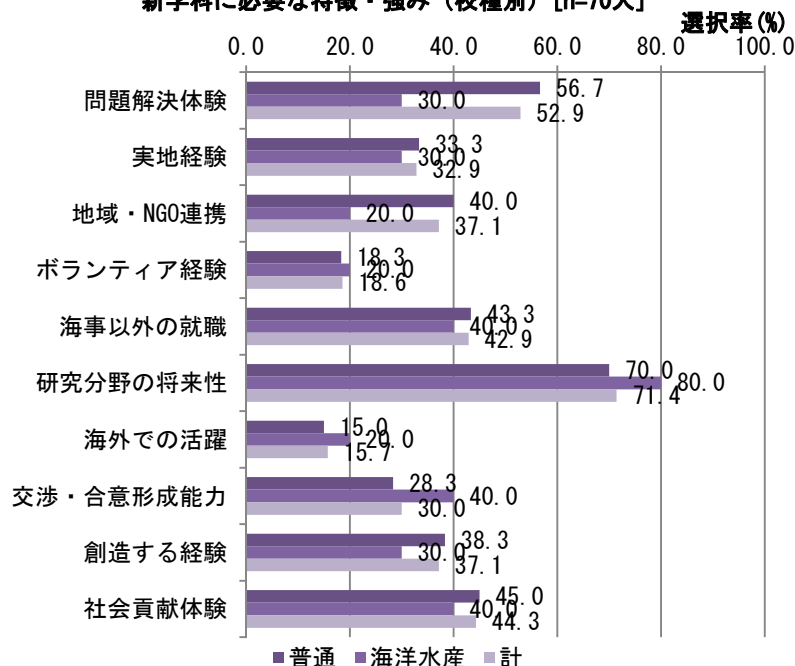
## (12) 質問 10：新学科等を生徒に勧めるために必要な特徴・強み

■質問 10： 四国の国立 5 大学の連携により設置を検討している新学科等において、どのような特徴や強みがあれば、生徒に勧めたいと考えますか？当てはまるものを全て選んでその番号に○をつけてください。

1. 実際の環境問題に対して解決策を導く等の経験ができる。
2. 就職後にすぐ活かせるような実地経験ができる。
3. 地域と連携した取り組みや、非営利団体などでの活動を体験できる。
4. 環境保全や災害復興に関するボランティアの経験ができる。
5. 海事関連以外へも就職口がある。
6. 研究分野の将来性があり、学部だけではなくより深い研究ができる。
7. 海外での活躍が期待できる。
8. 多様な考え方を理解し意見をまとめる交渉能力や合意形成能力を得られる。
9. 新しい事業やプロジェクトを立案し創造する経験ができる。
10. 社会の仕組みを理解し、社会に貢献できるような体験ができる。

新学科に必要な特徴・強み	選択数(人) [選択率%]		
	普通	海洋水産	計
問題解決体験	34 [ 56.7 ]	3 [ 30.0 ]	37 [ 52.9 ]
実地経験	20 [ 33.3 ]	3 [ 30.0 ]	23 [ 32.9 ]
地域・NGO連携	24 [ 40.0 ]	2 [ 20.0 ]	26 [ 37.1 ]
ボランティア経験	11 [ 18.3 ]	2 [ 20.0 ]	13 [ 18.6 ]
海事以外の就職	26 [ 43.3 ]	4 [ 40.0 ]	30 [ 42.9 ]
研究分野の将来性	42 [ 70.0 ]	8 [ 80.0 ]	50 [ 71.4 ]
海外での活躍	9 [ 15.0 ]	2 [ 20.0 ]	11 [ 15.7 ]
交渉・合意形成能力	17 [ 28.3 ]	4 [ 40.0 ]	21 [ 30.0 ]
創造する経験	23 [ 38.3 ]	3 [ 30.0 ]	26 [ 37.1 ]
社会貢献体験	27 [ 45.0 ]	4 [ 40.0 ]	31 [ 44.3 ]
n	60	10	70

新学科に必要な特徴・強み（校種別）[n=70人]



新学科等を生徒に勧めるために必要な特徴・強みとして選択した回答者が最も多かったのは「研究分野の将来性」で50人(約71%)であった。次いで「問題解決能力」が37人(約53%)であった。最も少なかったのは「海外での活躍」で11人(16%)であった。



## 2) 生徒 単純集計

### (1) 属性：県別・高校種別

高等学校名			学年	年生	性別	男・女
学校所在地	都道府県	市町村	希望進路	国公立大学・私立大学		
希望学科	理系学科・文系学科		希望進路検討状況	既に確定・現在検討中		

県別・高校種別 回答者数（人）

	普通	海洋水産	計
京都府	33	19	52
大阪府	0	0	0
兵庫県	37	0	37
和歌山県	36	0	36
鳥取県	0	0	0
島根県	0	36	36
岡山県	0	0	0
山口県	0	45	45
徳島県	133	0	133
愛媛県	88	0	88
高知県	250	0	250
福岡県	0	0	0
長崎県	31	0	31
大分県	27	0	27
宮崎県	29	0	29
鹿児島県	0	0	0
沖縄県	38	0	38
計	702	100	802

県別・高校種別 回答高等学校数（校）

	普通	海洋水産	計
京都府	1	1	2
大阪府	0	0	0
兵庫県	1	0	1
和歌山県	1	0	1
鳥取県	0	0	0
島根県	0	1	1
岡山県	0	0	0
山口県	0	1	1
徳島県	4	0	4
愛媛県	3	0	3
高知県	8	0	8
福岡県	0	0	0
長崎県	1	0	1
大分県	1	0	1
宮崎県	1	0	1
鹿児島県	0	0	0
沖縄県	1	0	1
計	22	3	25
配布数	39	11	50
回答率	56	27	50

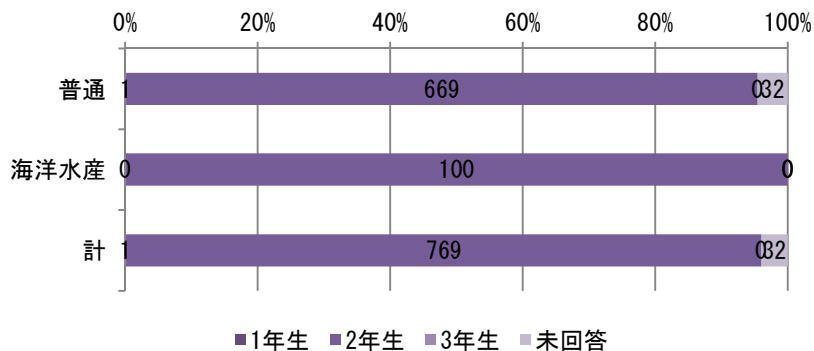
高等学校 25 校、生徒 802 人から回答をいただいた。県別では高知県が最も多く 8 校 250 人であった。海洋・水産が 3 校（回答率 27%）100 人、普通が 22 校（回答率 56%）702 人であった。

(2) 属性：学年・性別・希望進路・希望学科・進路検討状況

高等学校名			学年	年生	性別	男・女
学校所在地	都道府県	市町村	希望進路	国公立大学・私立大学		
希望学科	理系学科・文系学科		希望進路検討状況	既に確定・現在検討中		

学年	回答数(人) [回答率%]		
	普通	海洋水産	計
1年生	1 [ 0.1 ]	0 [ 0.0 ]	1 [ 0.1 ]
2年生	669 [ 95.3 ]	100 [ 100.0 ]	769 [ 95.9 ]
3年生	0 [ 0.0 ]	0 [ 0.0 ]	0 [ 0.0 ]
未回答	32 [ 4.6 ]	0 [ 0.0 ]	32 [ 4.0 ]
合計	702 [ 100.0 ]	100 [ 100.0 ]	802 [ 100.0 ]

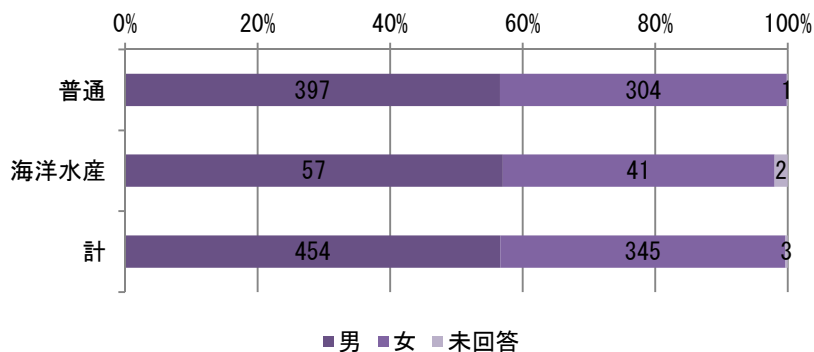
学年（校種別）[n=802人]



769名(約95.9%)が2年生であった。

性別	回答数(人) [回答率%]		
	普通	海洋水産	計
男	397 [ 56.6 ]	57 [ 57.0 ]	454 [ 56.6 ]
女	304 [ 43.3 ]	41 [ 41.0 ]	345 [ 43.0 ]
未回答	1 [ 0.1 ]	2 [ 2.0 ]	3 [ 0.4 ]
合計	702 [ 100.0 ]	100 [ 100.0 ]	802 [ 100.0 ]

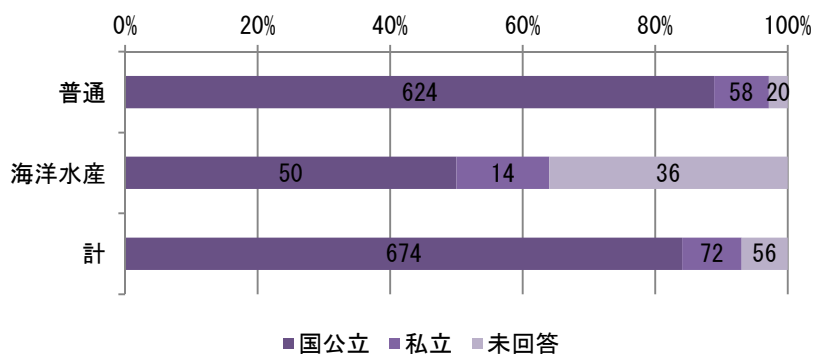
性別（校種別）[n=802人]



男454人(約57%)、女345人(約43%)と男性の方が若干多かった。

希望 進路	回答数(人) [回答率%]		
	普通	海洋水産	計
国公立	624 [ 88.9 ]	50 [ 50.0 ]	674 [ 84.0 ]
私立	58 [ 8.3 ]	14 [ 14.0 ]	72 [ 9.0 ]
未回答	20 [ 2.8 ]	36 [ 36.0 ]	56 [ 7.0 ]
合計	702 [ 100.0 ]	100 [ 100.0 ]	802 [ 100.0 ]

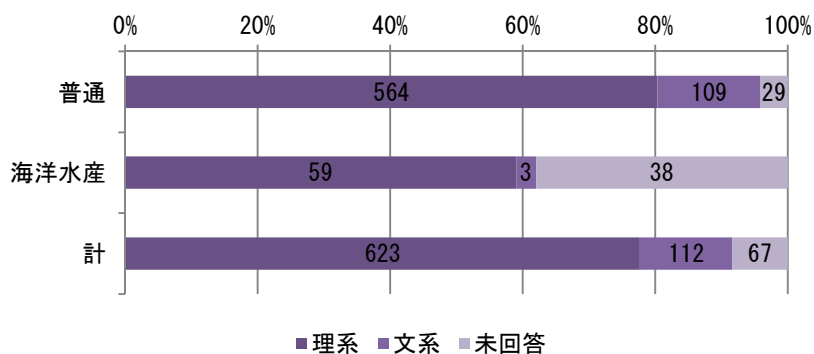
希望進路（校種別） [n=802人]



国公立大学希望者が 674 人(約 84%)で、私立希望者 72 人(約 9%)の 9 倍以上となった。

希望 学科	回答数(人) [回答率%]		
	普通	海洋水産	計
理系	564 [ 80.3 ]	59 [ 59.0 ]	623 [ 77.7 ]
文系	109 [ 15.5 ]	3 [ 3.0 ]	112 [ 14.0 ]
未回答	29 [ 4.1 ]	38 [ 38.0 ]	67 [ 8.4 ]
合計	702 [ 100.0 ]	100 [ 100.0 ]	802 [ 100.0 ]

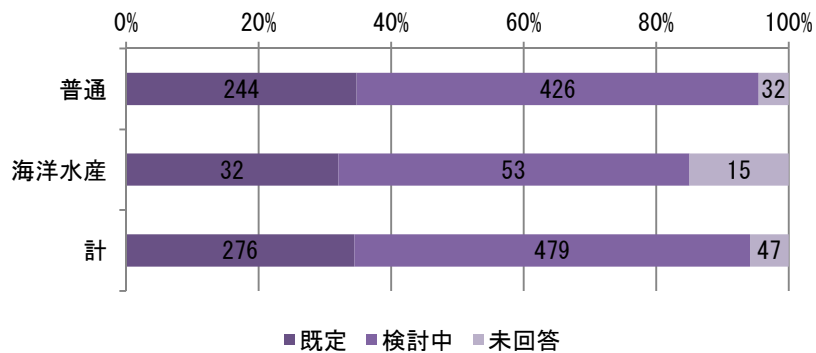
希望学科（校種別） [n=802人]



理系希望者が 623 人(約 78%)で、文系希望者 112 人(約 14%)の 5 倍以上となった。

検討 状況	回答数(人) [回答率%]		
	普通	海洋水産	計
既定	244 [ 34.8 ]	32 [ 32.0 ]	276 [ 34.4 ]
検討中	426 [ 60.7 ]	53 [ 53.0 ]	479 [ 59.7 ]
未回答	32 [ 4.6 ]	15 [ 15.0 ]	47 [ 5.9 ]
合計	702 [ 100.0 ]	100 [ 100.0 ]	802 [ 100.0 ]

検討状況（校種別） [n=802人]



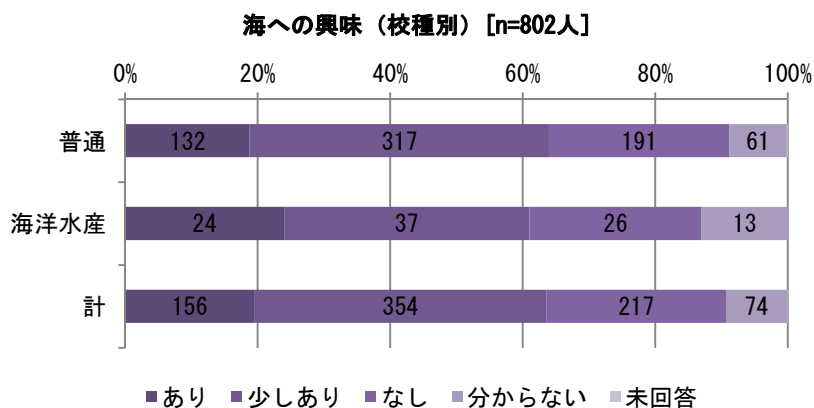
希望進路は現在検討中が 479 人(約 60%)で、既に確定している 276 人(約 34%)の 2 倍近かった。

### (3) 質問 1：海に関する興味

■質問 1： あなたは、海の生物や資源、海辺の暮らしや仕事など、「海」に関係することに興味がありますか？当てはまる選択肢を 1つ選んで その番号に○をつけてください。

1. 興味がある。 2. 少し興味がある。 3. 興味がない。 4. 分からない。

海への興味	回答数(人) [回答率%]		
	普通	海洋水産	計
あり	132 [ 18.8 ]	24 [ 24.0 ]	156 [ 19.5 ]
少しあり	317 [ 45.2 ]	37 [ 37.0 ]	354 [ 44.1 ]
なし	191 [ 27.2 ]	26 [ 26.0 ]	217 [ 27.1 ]
分からない	61 [ 8.7 ]	13 [ 13.0 ]	74 [ 9.2 ]
未回答	1 [ 0.1 ]	0 [ 0.0 ]	1 [ 0.1 ]
合計	702 [ 100.0 ]	100 [ 100.0 ]	802 [ 100.0 ]



海に少し興味があるとの回答が 354 人(約 44%)で最も多く、海に興味ありを合計すると 510 人(約 64%)となり過半数を越え、海に興味なしとの回答 217 人(約 27%)の 2 倍以上となった。

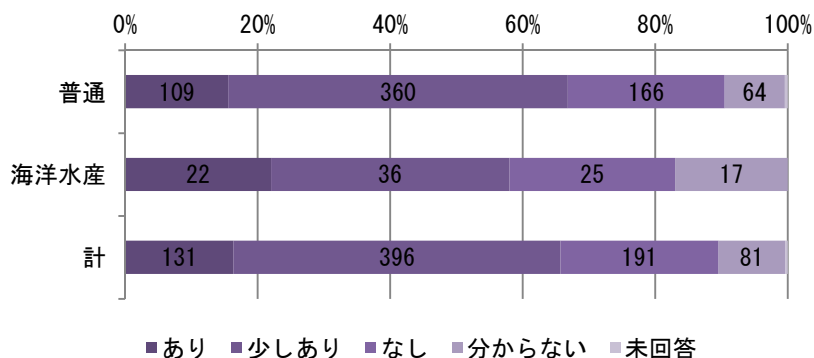
#### (4) 質問 2：海での取り組みに対する興味

■質問 2： 海はこれまでも私たちの生活や経済にとって重要な役割を果たしてきました。近年ではさらに、洋上風力発電、海洋資源の開発・利用、海や沿岸の自然環境の保全やエコツアー、地球温暖化などへの取り組みに対して人々の関心が高まっています。あなたはこのような取り組みに興味がありますか？当てはまる選択肢を1つ選んでその番号に○をつけてください。

1. 興味がある。 2. 少し興味がある。 3. 興味がない。 4. 分からない。

海での取組に対する興味	回答数(人) [回答率%]		
	普通	海洋水産	計
あり	109 [ 15.5 ]	22 [ 22.0 ]	131 [ 16.3 ]
少しあり	360 [ 51.3 ]	36 [ 36.0 ]	396 [ 49.4 ]
なし	166 [ 23.6 ]	25 [ 25.0 ]	191 [ 23.8 ]
分からない	64 [ 9.1 ]	17 [ 17.0 ]	81 [ 10.1 ]
未回答	3 [ 0.4 ]	0 [ 0.0 ]	3 [ 0.4 ]
合計	702 [ 100.0 ]	100 [ 100.0 ]	802 [ 100.0 ]

海での取り組みに対する興味（校種別）[n=802人]



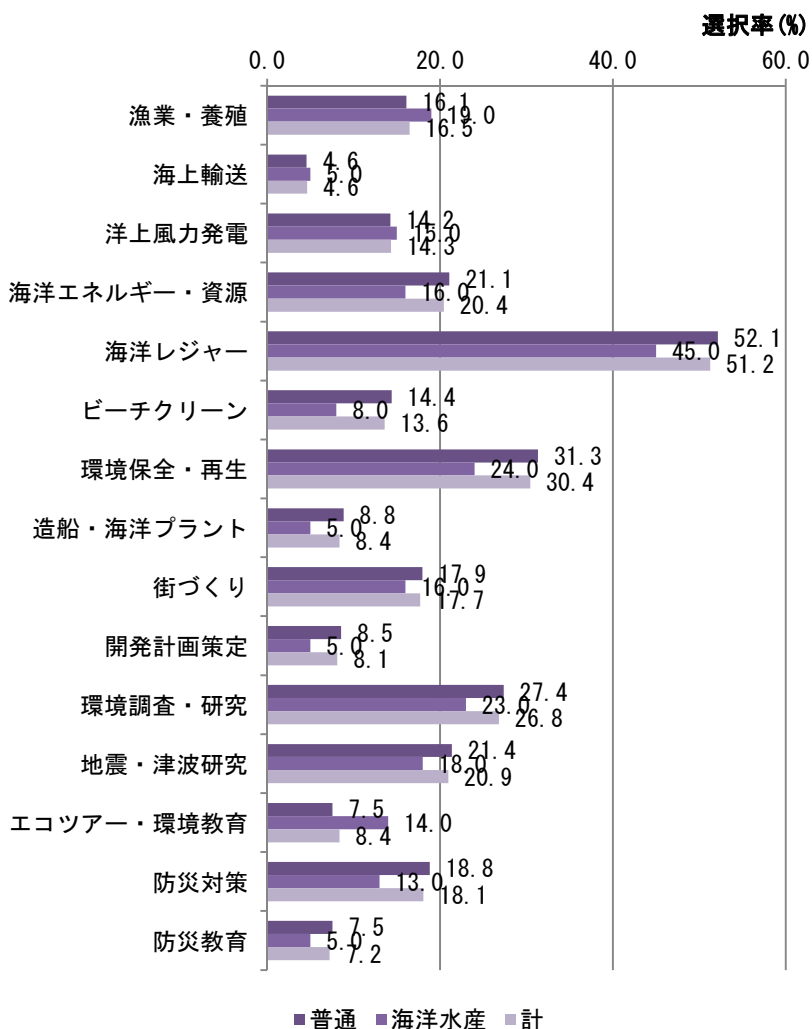
海での取り組みに少し興味があるとの回答が 396 人(約 49%)で最も多く、海に興味ありを合計すると 527 人(約 66%)となり、海に興味があるとの回答する過半数 510 人(約 64%)を越え、海での取り組みに興味なしとの回答 191 人(約 24%)の 2.5 倍以上となった。

(5) 質問3：海洋・沿岸域活動に対する興味

■質問3： 以下の中から、あなたが興味がある、もしくはやってみたいと思う取り組みを 全て選んで その番号に○をつけてください（海洋・沿岸域活動イメージ図参照）。

- |                                      |                         |
|--------------------------------------|-------------------------|
| 1. 漁業・養殖                             | 2. 海上輸送                 |
| 3. 洋上風力発電の開発                         | 4. 海洋エネルギー・資源の開発        |
| 5. 魚釣り・潮干狩り・ダイビング・サーフィン・ヨットなどの海洋レジャー |                         |
| 6. ビーチクリーンアップ                        | 7. サンゴ礁・アマモ場・砂浜などの保全と再生 |
| 8. 造船・海洋プラント                         | 9. 海を活かしたまちづくり          |
| 10. 海・土地の利用に関する計画づくり                 |                         |
| 11. 海の生物や水質などの環境調査・研究                |                         |
| 12. 海底地震・津波の研究                       | 13. エコツアー・環境教育          |
| 14. 津波・高潮などに対する防災対策                  | 15. 防災教育                |

興味のある海洋・沿岸域活動（校種別）[n=802人]



興味のある 海洋・沿岸域活動	選択数(人)[選択率%]		
	普通	海洋水産	計
漁業・養殖	113 [ 16.1 ]	19 [ 19.0 ]	132 [ 16.5 ]
海上輸送	32 [ 4.6 ]	5 [ 5.0 ]	37 [ 4.6 ]
洋上風力発電	100 [ 14.2 ]	15 [ 15.0 ]	115 [ 14.3 ]
海洋エネルギー・資源	148 [ 21.1 ]	16 [ 16.0 ]	164 [ 20.4 ]
海洋レジャー	366 [ 52.1 ]	45 [ 45.0 ]	411 [ 51.2 ]
ビーチクリーン	101 [ 14.4 ]	8 [ 8.0 ]	109 [ 13.6 ]
環境保全・再生	220 [ 31.3 ]	24 [ 24.0 ]	244 [ 30.4 ]
造船・海洋プラント	62 [ 8.8 ]	5 [ 5.0 ]	67 [ 8.4 ]
街づくり	126 [ 17.9 ]	16 [ 16.0 ]	142 [ 17.7 ]
開発計画策定	60 [ 8.5 ]	5 [ 5.0 ]	65 [ 8.1 ]
環境調査・研究	192 [ 27.4 ]	23 [ 23.0 ]	215 [ 26.8 ]
地震・津波研究	150 [ 21.4 ]	18 [ 18.0 ]	168 [ 20.9 ]
エコツアー・環境教育	53 [ 7.5 ]	14 [ 14.0 ]	67 [ 8.4 ]
防災対策	132 [ 18.8 ]	13 [ 13.0 ]	145 [ 18.1 ]
防災教育	53 [ 7.5 ]	5 [ 5.0 ]	58 [ 7.2 ]
n	702	100	802

興味がある海洋・沿岸域活動として選択した回答者が最も多かったのは「海洋レジャー」で411人(約51%)であった。次いで「環境保全・再生」が244人(約30%)、「環境調査・研究」が215人(約27%)であった。逆に最も少なかったのは「海上輸送」で37人(約5%)であった。



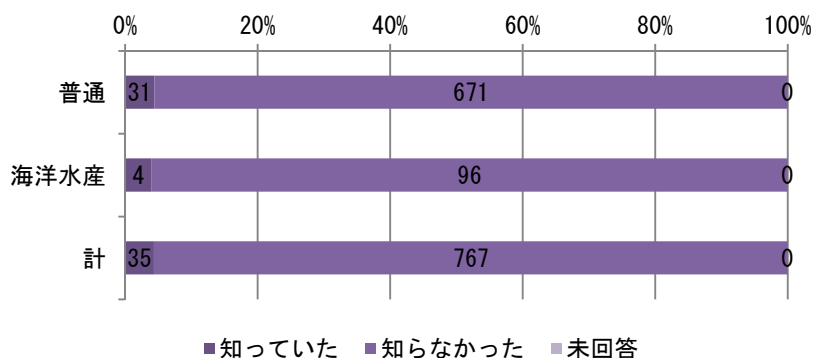
## (6) 質問 4 : 「沿岸域管理」のワード認知度

■質問 4 : 「沿岸域管理」という言葉を知っていましたか？  
 当てはまる選択肢を **1つ選んで** その番号に○をつけてください。

1. 知っていた。 2. 知らなかった。

沿岸域管理 ワード認知度	回答数(人) [回答率%]		
	普通	海洋水産	計
知っていた	31 [ 4.4 ]	4 [ 4.0 ]	35 [ 4.4 ]
知らなかった	671 [ 95.6 ]	96 [ 96.0 ]	767 [ 95.6 ]
未回答	0 [ 0.0 ]	0 [ 0.0 ]	0 [ 0.0 ]
合計	702 [ 100.0 ]	100 [ 100.0 ]	802 [ 100.0 ]

沿岸域管理ワード認知度 (校種別) [n=802人]



「沿岸域管理」という言葉を知っていたと回答したのは35人(約4%)にとどまり、767人(約96%)が知らなかったと回答した。

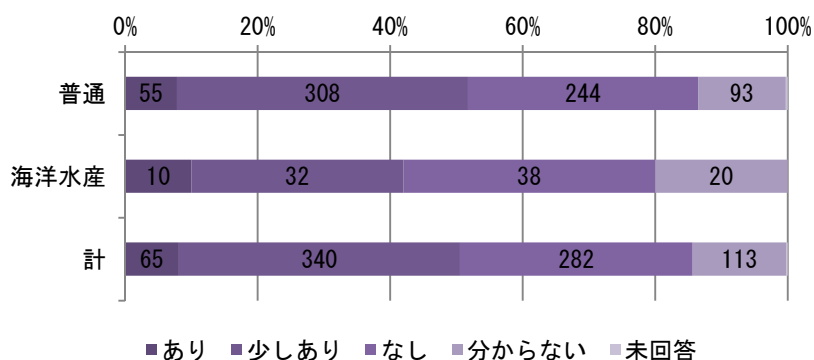
## (7) 質問 5 : 沿岸域管理に対する興味

■質問 5 : 海や沿岸の環境を守りながら開発・利用を進め、これからもずっと海や沿岸の恩恵を得ていくために必要なことを「沿岸域管理」と呼びますが、このような分野に興味がありますか？当てはまる選択肢を 1つ選んで その番号に○をつけてください。

1. 興味がある。 2. 少し興味がある。 3. 興味がない。 4. わからない。

沿岸域管理に対する興味	回答数(人) [回答率%]		
	普通	海洋水産	計
あり	55 [ 7.8 ]	10 [ 10.0 ]	65 [ 8.1 ]
少しあり	308 [ 43.9 ]	32 [ 32.0 ]	340 [ 42.4 ]
なし	244 [ 34.8 ]	38 [ 38.0 ]	282 [ 35.2 ]
分からない	93 [ 13.2 ]	20 [ 20.0 ]	113 [ 14.1 ]
未回答	2 [ 0.3 ]	0 [ 0.0 ]	2 [ 0.2 ]
合計	702 [ 100.0 ]	100 [ 100.0 ]	802 [ 100.0 ]

沿岸域管理に対する興味（校種別）[n=802人]



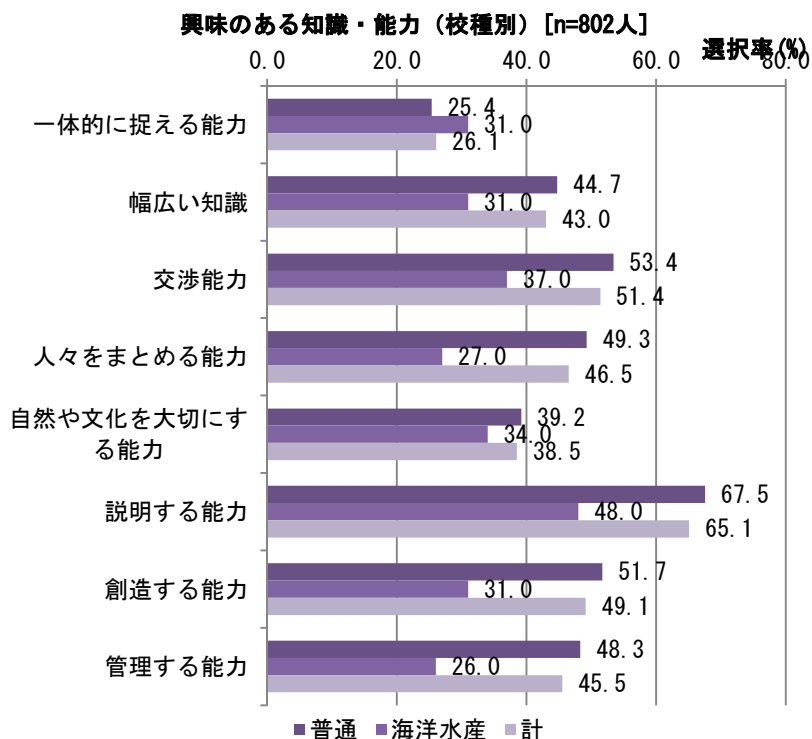
沿岸域に少し興味があるとの回答が 340 人(約 42%)で、興味があるとの回答 65 人(約 8%)と合計すると 405 人(約 50%)となり過半数を超えた。一方で、興味がないとの回答も 282 件(約 35%)となった。

## (8) 質問 6 : 興味のある知識・能力

■質問 6 : 「沿岸域管理」には以下のような知識・能力が必要だと考えられていますが、これは他の職種においても重要な知識・能力です。この中に、興味がある、または身につけたいと思うものはありますか？  
当てはまるものをすべて選んでその番号に○をつけてください。

1. 海と陸の環境の相互のつながりを一体的にとらえる能力。
2. 自然科学と社会科学の両方にまたがる幅広い知識。
3. 人々の協力を得るための交渉能力。
4. 立場や意見の異なった人々をまとめる能力。
5. 地域の自然や文化を大切にできる能力。
6. 相手に分かりやすく説明する能力。
7. 新しいプロジェクトを考え、形にできる能力。
8. 仕事の進行状況を適切に把握し、管理する能力。

興味のある知識・能力	選択数(人) [選択率%]		
	普通	海洋水産	計
一体的に捉える能力	178 [ 25.4 ]	31 [ 31.0 ]	209 [ 26.1 ]
幅広い知識	314 [ 44.7 ]	31 [ 31.0 ]	345 [ 43.0 ]
交渉能力	375 [ 53.4 ]	37 [ 37.0 ]	412 [ 51.4 ]
人々をまとめる能力	346 [ 49.3 ]	27 [ 27.0 ]	373 [ 46.5 ]
自然や文化を大切にできる能力	275 [ 39.2 ]	34 [ 34.0 ]	309 [ 38.5 ]
説明する能力	474 [ 67.5 ]	48 [ 48.0 ]	522 [ 65.1 ]
創造する能力	363 [ 51.7 ]	31 [ 31.0 ]	394 [ 49.1 ]
管理する能力	339 [ 48.3 ]	26 [ 26.0 ]	365 [ 45.5 ]
n	702	100	802



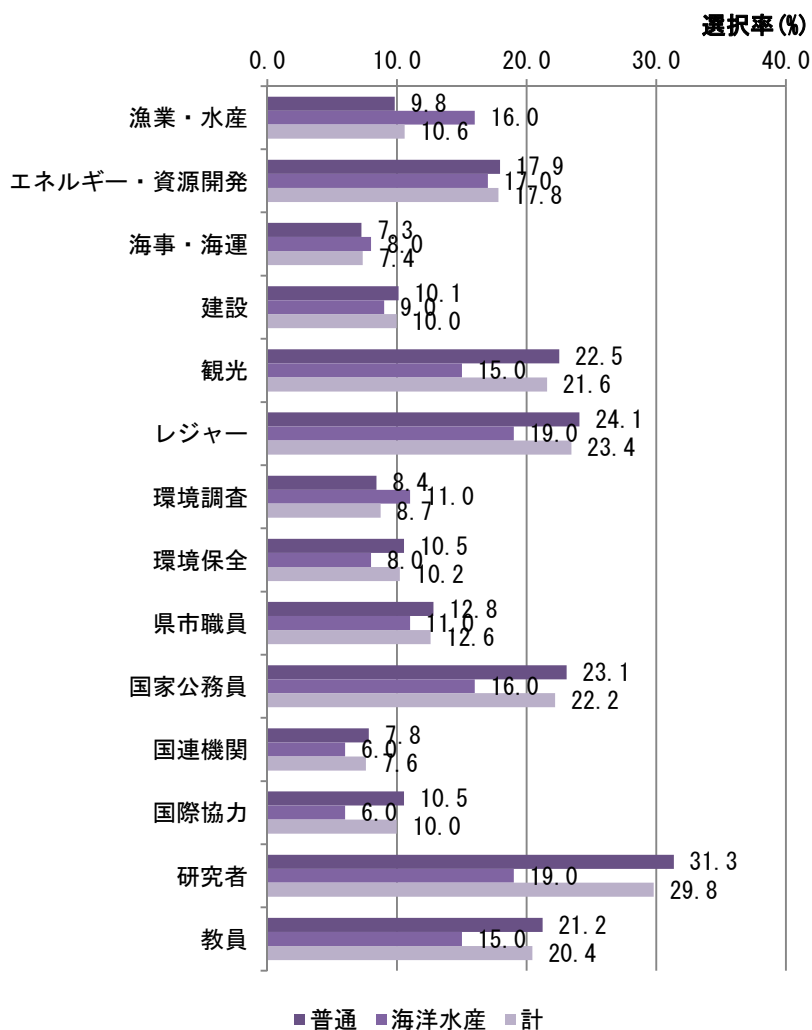
興味がある知識・能力として選択した回答者が最も多かったのは「説明する能力」で 522 人(約 65%)であった。次いで「交渉能力」が 412 人(約 51%)、「創造する能力」が 394 人(約 49%)であった。逆に最も少なかったのは「一体的に捉える能力」で 209 人(約 26%)であった。

**(9) 質問 7：興味のある職業**

■質問 7： 以下の様な職業で、質問 6 のような「沿岸域管理」に関する知識や能力を持った人材が求められています。あなたが興味がある、もしくはやってみたくと思う職業はありますか？当てはまる職業を全て選んでその番号に○をつけてください。

1. 漁業・水産業（漁師・漁協職員・水産加工会社など）。
2. エネルギーや資源の開発に関する事業（総合商社・石油会社・電力会社など）。
3. 海事・運輸に関する事業（海運・物流・造船など）。
4. 建設事業（港・防波堤・橋の設計や建設など）。
5. 観光事業（旅行会社・ホテル・ガイド・エコガイドなど）。
6. レジャー事業（マリナー、ヨットクラブ、ダイビング、サーフィンなど）
7. 環境調査会社（環境影響評価・コンサルタントなど）。
8. 環境保全に関わる組織（NPO・NGO・シンクタンク・財団法人など）。
9. 県や市の職員（地域計画作成、産業振興、環境保全など）。
10. 国家公務員（国土交通省・防衛省・環境省・農林水産省・外務省など）。
11. 国連機関の職員（国連開発計画・世界銀行など）。
12. 国際協力関係の職員（JICA（例：青年海外協力隊）、WWF など）。
13. 大学や研究所の研究者（生物学・地質学・政策学・法律学・工学など）。
14. 小中高等学校の教員（社会科・理科・国語など）。

**興味のある職業（校種別） [n=802人]**



興味のある 職業	選択数(人)[選択率%]		
	普通	海洋水産	計
漁業・水産	69 [ 9.8 ]	16 [ 16.0 ]	85 [ 10.6 ]
エネルギー・資源開発	126 [ 17.9 ]	17 [ 17.0 ]	143 [ 17.8 ]
海事・海運	51 [ 7.3 ]	8 [ 8.0 ]	59 [ 7.4 ]
建設	71 [ 10.1 ]	9 [ 9.0 ]	80 [ 10.0 ]
観光	158 [ 22.5 ]	15 [ 15.0 ]	173 [ 21.6 ]
レジャー	169 [ 24.1 ]	19 [ 19.0 ]	188 [ 23.4 ]
環境調査	59 [ 8.4 ]	11 [ 11.0 ]	70 [ 8.7 ]
環境保全	74 [ 10.5 ]	8 [ 8.0 ]	82 [ 10.2 ]
県市職員	90 [ 12.8 ]	11 [ 11.0 ]	101 [ 12.6 ]
国家公務員	162 [ 23.1 ]	16 [ 16.0 ]	178 [ 22.2 ]
国連機関	55 [ 7.8 ]	6 [ 6.0 ]	61 [ 7.6 ]
国際協力	74 [ 10.5 ]	6 [ 6.0 ]	80 [ 10.0 ]
研究者	220 [ 31.3 ]	19 [ 19.0 ]	239 [ 29.8 ]
教員	149 [ 21.2 ]	15 [ 15.0 ]	164 [ 20.4 ]
n	702	100	802

興味がある職業として選択した回答者が最も多かったのは「大学や研究所の研究者」で 239 人(約 30%)であった。次いで「レジャー事業」が 188 人(約 23%)、「国家公務員」が 178 人(約 22%)であった。逆に最も少なかったのは「海事・海運に関する事業」で 59 人(約 7%)であった。

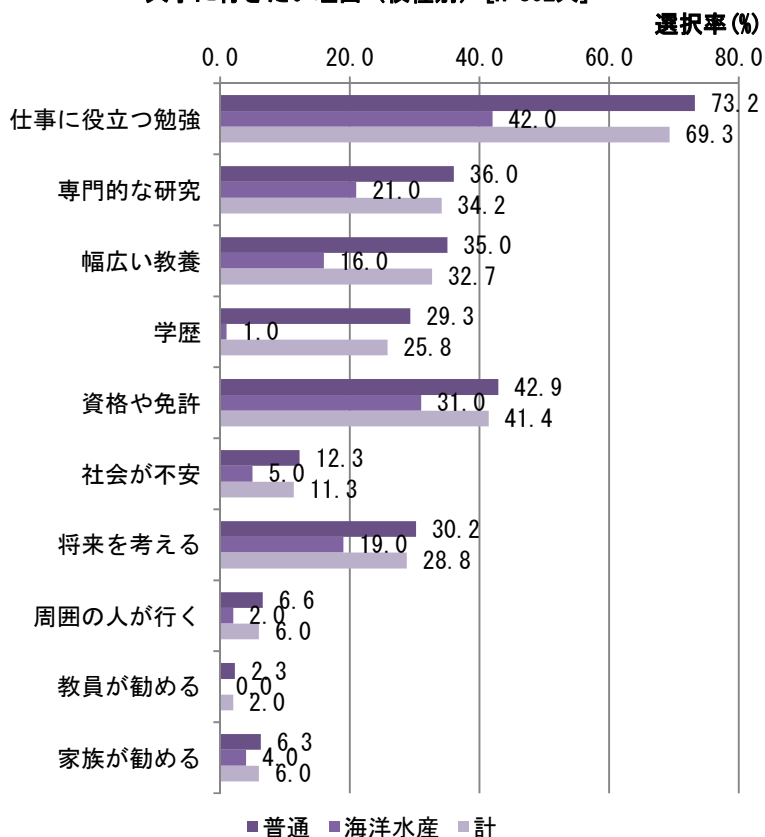
## (10) 質問 8 : 大学に行きたい理由

■質問 8 : あなたが大学に行きたいと思う理由は何ですか？  
 当てはまる選択肢を全て選んでその番号に○をつけてください。

1. 将来の仕事に役立つ勉強がしたい。 2. 専門的な研究をしたい。  
 3. 幅広い教養を身につけたい。 4. 大学の学歴がほしい。 5. 資格や免許を取得したい。  
 6. すぐに社会に出るのが不安。 7. 自分の将来について考えたい。 8. 周囲の人がみな行く。  
 9. 学校の先生が勧める。 10. 家族が勧める。

大学に行きたい理由	選択数(人) [選択率%]		
	普通	海洋水産	計
仕事に役立つ勉強	514 [ 73.2 ]	42 [ 42.0 ]	556 [ 69.3 ]
専門的な研究	253 [ 36.0 ]	21 [ 21.0 ]	274 [ 34.2 ]
幅広い教養	246 [ 35.0 ]	16 [ 16.0 ]	262 [ 32.7 ]
学歴	206 [ 29.3 ]	1 [ 1.0 ]	207 [ 25.8 ]
資格や免許	301 [ 42.9 ]	31 [ 31.0 ]	332 [ 41.4 ]
社会が不安	86 [ 12.3 ]	5 [ 5.0 ]	91 [ 11.3 ]
将来を考える	212 [ 30.2 ]	19 [ 19.0 ]	231 [ 28.8 ]
周囲の人が行く	46 [ 6.6 ]	2 [ 2.0 ]	48 [ 6.0 ]
教員が勧める	16 [ 2.3 ]	0 [ 0.0 ]	16 [ 2.0 ]
家族が勧める	44 [ 6.3 ]	4 [ 4.0 ]	48 [ 6.0 ]
n	702	100	802

大学に行きたい理由 (校種別) [n=802人]



大学に行きたい理由として選択した回答者が最も多かったのは「将来の仕事に役立つ勉強がしたい」で 556 人(約 69%)であった。次いで「資格や免許を取得したい」が 332 人(約 41%)、「専門的な研究」が 274 人(約 34%)であった。逆に最も少なかったのは「教員が勧める」で 16 人(約 2%)であった。

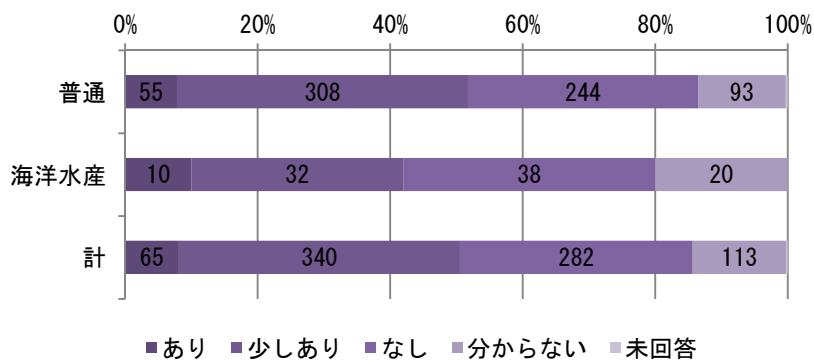
### (11) 質問 9 : 新学科に対する興味

■質問 9 : 高知大学が四国の国立5大学の連携により設置を検討している海に関する新しい教育組織(学科等)では、質問6の選択肢にあるような知識・能力を広く総合的に学ぶことができます。あなたはこの新学科に興味がありますか？  
 当てはまる選択肢を **1つ選んで** その番号に○をつけてください。

1. 興味がある。 2. 少し興味がある。 3. 興味がない。 4. わからない。

新学科に対する興味	回答数(人) [回答率%]		
	普通	海洋水産	計
あり	84 [ 12.0 ]	10 [ 10.0 ]	94 [ 11.7 ]
少しあり	270 [ 38.5 ]	26 [ 26.0 ]	296 [ 36.9 ]
なし	247 [ 35.2 ]	31 [ 31.0 ]	278 [ 34.7 ]
分からない	95 [ 13.5 ]	25 [ 25.0 ]	120 [ 15.0 ]
未回答	6 [ 0.9 ]	8 [ 8.0 ]	14 [ 1.7 ]
合計	702 [ 100.0 ]	100 [ 100.0 ]	802 [ 100.0 ]

新学科に対する興味(校種別) [n=802人]

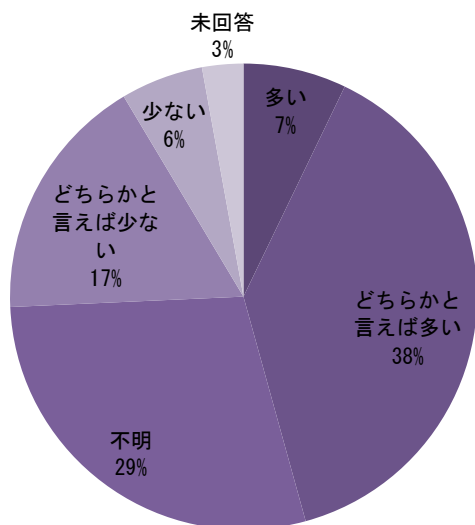


新学科に対して少し興味があるとの回答が296人(約37%)で最も多く、興味があるとの回答94人(約12%)と合計すると390人(約49%)となり約半数であった。一方、興味がないとの回答は120人(約35%)であった。

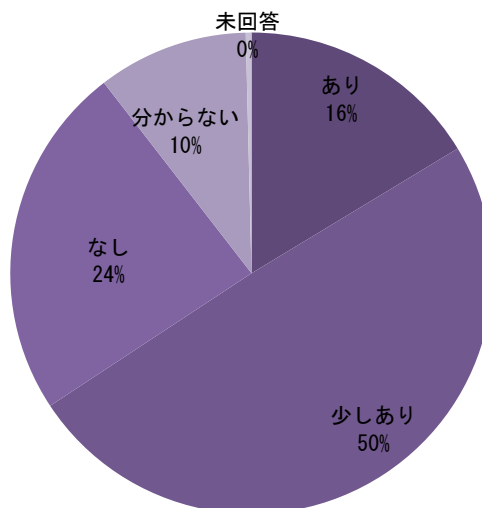
### 3) 進学担当教諭と生徒の比較

#### (1) 海での取り組みに関する興味

【教員回答】  
海での取り組みに興味を持つ生徒 (n=70人)



【生徒回答】  
海での取り組みに対する興味 (n=802人)

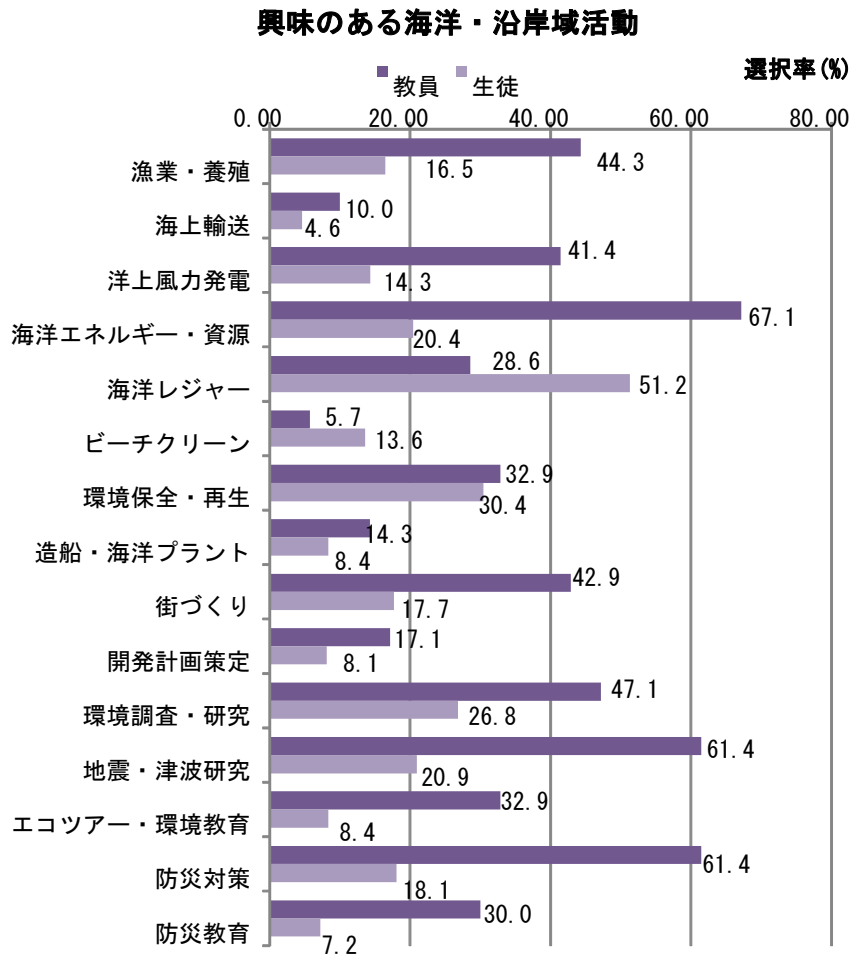


海でのエネルギー・資源開発や環境保全に関する取り組みに対して興味がある生徒は多いと回答した教員は、どちらかと言えば多いも含めると約 45%であった。逆に、興味がある生徒は少ないと回答した教員は、どちらかと言えば少ないも含めると約 23%であった。

実際は、興味があると回答した生徒は、少しあるとの回答も含めると約 66%になった。



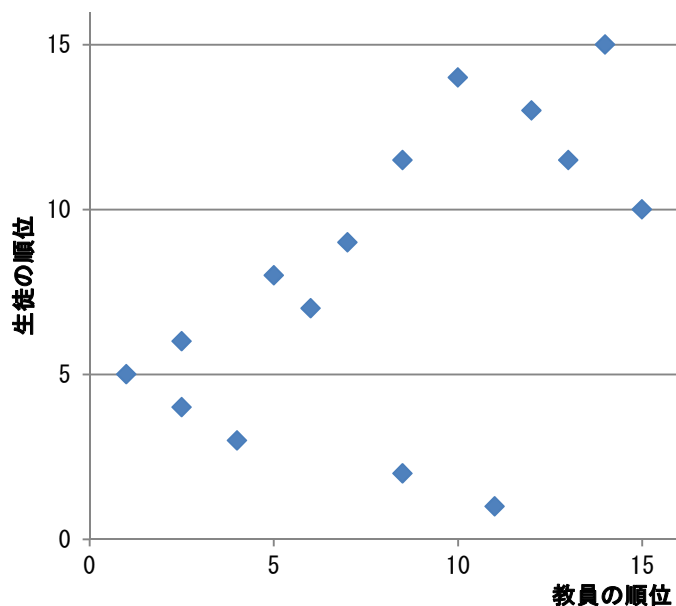
(2) 海洋・沿岸域活動に対する興味



海洋・沿岸域活動のうち、興味があると回答した教員が最も多かったのは「海洋エネルギー・資源の開発」であるのに対して、興味があると回答した生徒が最も多かったのは「海洋レジャー」であった。逆に興味があると回答した教員が最も少なかったのは「ビーチクリーンアップ」であったが、興味があると回答した生徒が最も少なかったのは「海上輸送」であった。

それぞれの選択肢において選択者数順に順番を付け散布図に表示すると次のようになった。

教員と生徒が興味があると回答した  
海洋・沿岸域活動の順位



スピアマンの順位相関係数を計算すると以下のようになる。

	平均順位		(教員-教員平均) × (生徒-生徒平均)	(教員-教員平均) <sup>2</sup>	(生徒-生徒平均) <sup>2</sup>
	教員	生徒			
漁業・養殖	5	8	0	9	0
海上輸送	14	15	42	36	49
洋上風力発電	7	9	-1	1	1
海洋エネルギー・資源	1	5	21	49	9
海洋レジャー	11	1	-21	9	49
ビーチクリーン	15	10	14	49	4
環境保全・再生	8.5	2	-3	0.25	36
造船・海洋プラント	13	11.5	17.5	25	12.25
街づくり	6	7	2	4	1
開発計画策定	12	13	20	16	25
環境調査・研究	4	3	20	16	25
地震・津波研究	2.5	4	22	30.25	16
エコツアー・環境教育	8.5	11.5	1.75	0.25	12.25
防災対策	2.5	6	11	30.25	4
防災教育	10	14	12	4	36
平均	8	8	合計 158.25	279	279.5
			平方根	16.703	16.718
			スピアマンの順位相関係数	0.5667	

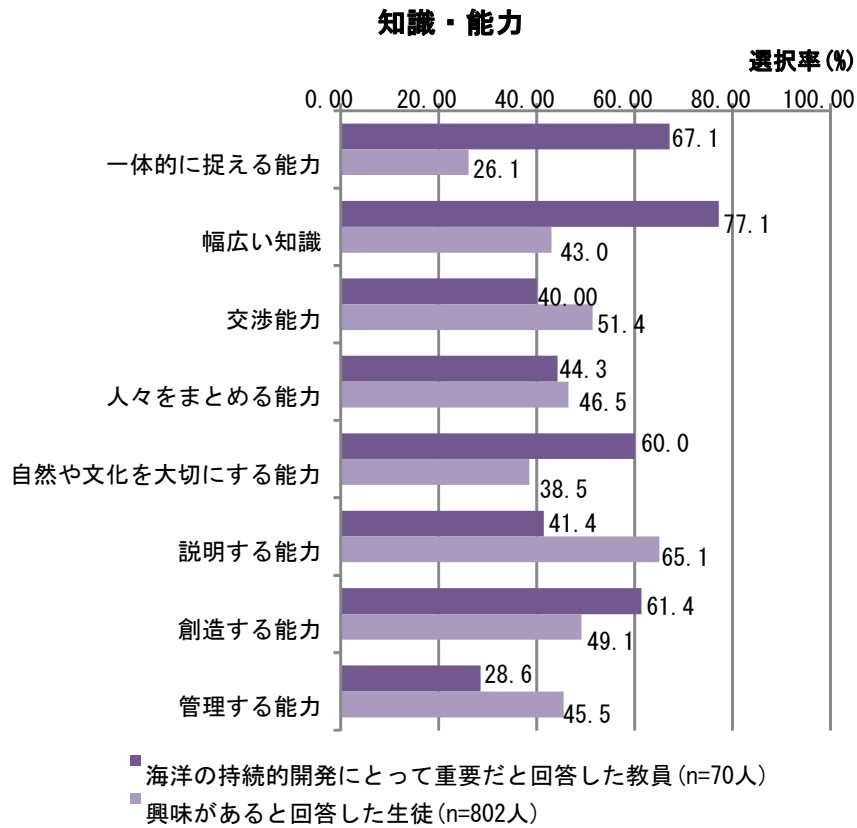
スピアマンの順位相関係数は0.5667となり、相関があるともないとも言えない。

散布図を見る限り、海洋レジャーの教員11位・生徒1位と、環境保全・再生の教員8.5位・生徒2位が外れ値のように見えるため、除外してスピアマンの順位相関係数を計算すると以下のようになった。

	平均順位		(教員-教員平均) × (生徒-生徒平均)	(教員-教員平均) <sup>2</sup>	(生徒-生徒平均) <sup>2</sup>
	教員	生徒			
漁業・養殖	5	8	2.7308	7.4571	1
海上輸送	14	15	37.615	39.303	36
洋上風力発電	7	9	0	0.534	0
海洋エネルギー・資源	1	5	26.923	45.303	16
海洋レジャー					
ビーチクリーン	15	10	7.2692	52.842	1
環境保全・再生					
造船・海洋プラント	13	11.5	13.173	27.765	6.25
街づくり	6	7	3.4615	2.9956	4
開発計画策定	12	13	17.077	18.226	16
環境調査・研究	4	3	22.385	13.919	36
地震・津波研究	2.5	4	26.154	27.361	25
エコツアー・環境教育	8.5	11.5	1.9231	0.5917	6.25
防災対策	2.5	6	15.692	27.361	9
防災教育	10	14	11.346	5.1494	25
平均	7.7308	9	合計 185.75	268.81	181.5
			平方根	16.395	13.472
			スピアマンの順位相関係数	0.8409	

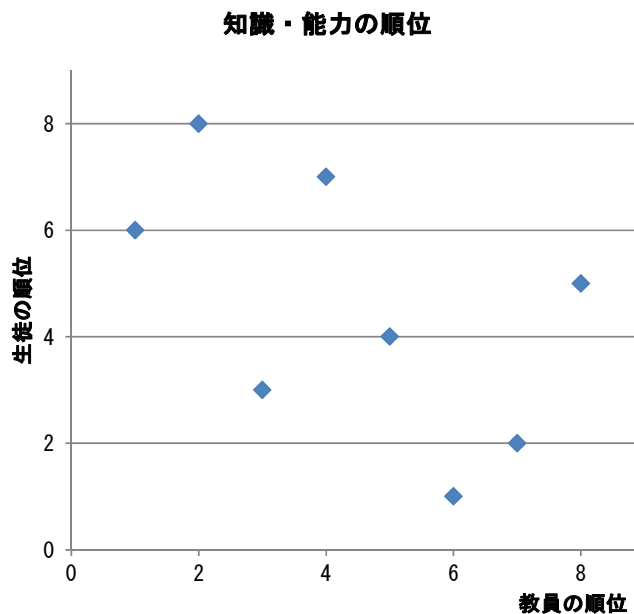
スピアマンの順位相関係数は0.8409となり、相関が少し見られた。

### (3) 知識・能力



知識・能力うち、海洋の持続的な開発にとって重要だと回答した教員が最も多かったのは「幅広い知識」であるのに対して、興味があると回答した生徒が最も多かったのは「説明する能力」であった。逆に興味があると回答した教員が最も少なかったのは「管理する能力」であったが、興味があると回答した生徒が最も少なかったのは「一体的に捉える能力」であった。

それぞれの選択肢において選択者数順に順番を付け散布図に表示すると次のようになった。



スピアマンの順位相関係数を計算すると以下ようになる。

	平均順位		(教員-教員平均) × (生徒-生徒平均)	(教員-教員平均) <sup>2</sup>	(生徒-生徒平均) <sup>2</sup>
	教員	生徒			
一体的に捉える能力	2	8	-8.75	6.25	12.25
幅広い知識	1	6	-5.25	12.25	2.25
交渉能力	7	2	-6.25	6.25	6.25
人々をまとめる能力	5	4	-0.25	0.25	0.25
自然や文化を大切にす	4	7	-1.25	0.25	6.25
説明する能力	6	1	-5.25	2.25	12.25
創造する能力	3	3	2.25	2.25	2.25
管理する能力	8	5	1.75	12.25	0.25
平均	4.5	4.5	合計 -23	42	42
			平方根	6.4807	6.4807
			スピアマンの順位相関係数	-0.548	

スピアマンの順位相関係数は-0.548 となり、相関があるともないとも言えない。

散布図を見る限り、管理する能力の教員 8 位・生徒 5 位が外れ値のように見えるため、除外してスピアマンの順位相関係数を計算すると以下ようになった。

	平均順位		(教員-教員平均) × (生徒-生徒平均)	(教員-教員平均) <sup>2</sup>	(生徒-生徒平均) <sup>2</sup>
	教員	生徒			
一体的に捉える能力	2	8	-7.143	4	12.755
幅広い知識	1	6	-4.714	9	2.4694
交渉能力	7	2	-7.286	9	5.898
人々をまとめる能力	5	4	-0.429	1	0.1837
自然や文化を大切にす	4	7	0	0	6.6122
説明する能力	6	1	-6.857	4	11.755
創造する能力	3	3	1.4286	1	2.0408
管理する能力					
平均	4	4.4286	合計 -25	28	41.714
			平方根	5.2915	6.4587
			スピアマンの順位相関係数	-0.732	

スピアマンの順位相関係数は-0.732 となり、負の相関が少し見られた。

この報告書は、ボートレースの交付金による日本財団の助成金を受けて作成しました。

平成24年度 総合的沿岸域管理の教育カリキュラム等に関する調査研究  
報告書（付録）総合的沿岸域管理に関する高校のニーズ調査結果

平成25年3月発行

発行 海洋政策研究財団（財団法人シップ・アント・オーシャン財団）

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10 虎ノ門35森ビル  
TEL 03-5404-6828（代表） FAX 03-5404-6800  
<http://www.sof.or.jp> E-mail : [info@sof.or.jp](mailto:info@sof.or.jp)

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。